



Cisco UCS Server Configuration Utility, Release 3.1(2)

Cisco UCS C シリーズ サーバ向け

初版：2012年06月06日

最終更新：2012年11月21日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255 (フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。



目次

はじめに vii

対象読者 vii

表記法 vii

マニュアルの構成 ix

Cisco UCS の関連ドキュメント x

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート x

UCS Server Configuration Utility の概要 1

Cisco UCS Server Configuration Utility について 1

サポートされるオペレーティング システム 2

サポートされるプラットフォーム 2

サポートされている周辺デバイス 2

ハードウェア要件 4

UCS-SCU の開始 5

cisco.com からの UCS-SCU ISO イメージの取得 5

UCS-SCU の起動 6

Cisco Flexible Flash の使用 6

Cisco Flexible Flash について 6

Cisco Flexible Flash からの UCS-SCU の起動 6

仮想メディアの使用 7

KVM コンソールについて 7

仮想 KVM コンソールの開始 8

KVM からの UCS-SCU の起動 8

物理メディアの使用 9

UCS-SCU の終了 9

UCS-SCU ユーザーインターフェイスの概要 11

ライセンス契約 11

UCS-SCU グラフィカル ユーザ インターフェイスの概要	12
ネットワークの設定	15
サーバヘルス チェックの実行	16
ログの保存	17
サーバスナップショットの使用	17
	18
Cisco Flexible Flash へのイメージの更新	19
cisco.com からの更新	19
ネットワークからの更新	20
サーバの再起動	21
サーバインベントリの表示	23
サーバインベントリについて	23
サーバインベントリ機能の使用	24
サーバヘルスの表示	25
サーバヘルスについて	25
サーバヘルスの表示	25
オペレーティング システムのインストール	27
オペレーティング システムのインストールについて	27
高速インストールの実行	28
Windows のカスタム インストールの実行	31
パーソナライズ	32
インストールパーティション	33
ネットワーク設定	34
インストール ドライバ	35
Linux サーバシリーズ オペレーティング システムのカスタム インストールの実行	36
基本設定	37
インストールパーティション	37
パッケージの選択	39
ネットワーク設定	39
インストール ドライバ	41
SUSE Linux サーバ オペレーティング システムのカスタム インストールの実行	41
基本設定	42

インストールパーティション	43
パッケージの選択	44
ネットワーク設定	44
インストール ドライバ	46
診断ツールの概要	47
診断ツールについて	47
診断ツールの使用	49
クイック テスト	49
包括的テスト	50
クイック タスク	51
テストスイート	52
テスト ログの概要	52
テストの要約	53
ブート順と RAID レベルの設定	55
ブート順の設定	55
RAID 設定	56
RAID 設定の概要	56
RAID 設定ページのコンポーネント	56
物理ディスク テーブルについて	56
論理ディスク テーブルについて	57
RAID アレイの設定	58
冗長性を伴わない自動セットアップ	59
冗長性を伴う自動セットアップ	60
Single-Level RAID の設定	60
ネストされた RAID の設定	61
RAID アレイのクリア	62
すべての仮想ディスクの削除	62
複数または単一の仮想ディスクの削除	63
UCS-SCU でサポートされる RAID コントローラ	64
LSI 内蔵の MegaRAID	64
サポートされるプラットフォーム	64
サポートされる RAID オプション	64

LSI MegaRAID コントローラのイネーブル化 65

ログの表示 67

システム ログの表示 67

システム イベント ログの表示 68

UCS-SCU の問題のトラブルシューティング 69

UCS-SCU の問題のトラブルシューティング 69



はじめに

この章は、次の項で構成されています。

- [対象読者](#), [vii ページ](#)
- [表記法](#), [vii ページ](#)
- [マニュアルの構成](#), [ix ページ](#)
- [Cisco UCS の関連ドキュメント](#), [x ページ](#)
- [マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート](#), [x ページ](#)

対象読者

このガイドは、次の 1 つ以上に責任と専門知識を持つデータセンター管理者を主な対象にしています。

- サーバ管理
- ストレージ管理
- ネットワーク管理
- ネットワーク セキュリティ

表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表記法	用途
bold フォント	コマンド、キーワード、およびユーザが入力したテキストは、 bold フォントで示しています。

表記法	用途
<i>italic</i> フォント	ドキュメント名、新規用語または強調する用語、値を指定するための引数は、 <i>italic</i> フォントで示しています。
courier フォント	システムが表示するターミナルセッションおよび情報は、courier フォントで示しています。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{x y z}	必ずいずれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。
<>	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。
[]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符 (!) またはポンド記号 (#) がある場合には、コメント行であることを示します。



(注) 「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



ヒント 「問題解決に役立つ情報」です。ヒントには、トラブルシューティングや操作方法ではなく、ワンポイントアドバイスと同様に知っておくと役立つ情報が記述される場合もあります。



注意 「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。



ワンポイントアドバイス 時間を節約する方法です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

**警告****安全上の重要事項**

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。警告の各国語版については、各警告文の末尾に提示されている番号をもとに、この機器に付属している各国語で記述された安全上の警告を参照してください。

これらの注意事項を保存しておいてください。

マニュアルの構成

このマニュアルは、次の章で構成されています。

章	タイトル	説明
第 1 章	UCS Server Configuration Utility の概要	ユーティリティの概要と提供されている機能について説明します。
第 2 章	UCS-SCU の開始	ユーティリティを起動する方法について説明します。
第 3 章	UCS-SCU ユーザ インターフェイスの概要	GUI とその要素に関する情報が含まれます。
第 4 章	サーバ インベントリの使用	サーバ インベントリの表示に関する情報が含まれます。
第 5 章	サーバ ヘルスの使用	サーバ ヘルスの表示に関する情報が含まれています。
第 6 章	オペレーティングシステムのインストール	オペレーティングシステムのインストールに関する情報が含まれます。
第 7 章	診断ツールの概要	診断ツールに関する情報が含まれます。
第 8 章	ブート順と RAID レベルの設定	BIOS のブート順と RAID レベルに関する情報が含まれます。
第 9 章	ログの表示	システム ログおよびシステム イベント ログの表示に関する情報が含まれます。
第 10 章	UCS-SCU の問題のトラブルシューティング	トラブルシューティング情報と FAQ が含まれます。

Cisco UCS の関連ドキュメント

ドキュメント ロードマップ

すべての B シリーズ マニュアルの一覧については、<http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/b-series-doc> で入手できる『Cisco UCS B-Series Servers Documentation Roadmap』を参照してください。

すべての C シリーズ ドキュメントの一覧については、次の URL で入手できる『Cisco UCS C-Series Servers Documentation Roadmap』を参照してください。<http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/c-series-doc>。

その他のドキュメント リソース

B シリーズおよび C シリーズのすべてのドキュメントを含む ISO ファイルは、次の URL から入手できます。<http://www.cisco.com/cisco/software/type.html?mdfid=283853163&flowid=25821> このページで、[Unified Computing System (UCS) Documentation Roadmap Bundle] をクリックします。

ISO ファイルは、各メジャー ドキュメント リリース後にアップデートされます。

ドキュメントのアップデート通知を受け取るには、[Twitter](#) で [Cisco UCS Docs](#) をフォローしてください。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカルサポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『[What's New in Cisco Product Documentation](#)』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

『[What's New in Cisco Product Documentation](#)』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダー アプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

ドキュメントのアップデート通知を受け取るには、[Twitter](#) で [Cisco UCS Docs](#) をフォローしてください。



第 1 章

UCS Server Configuration Utility の概要

この章の内容は、次のとおりです。

- [Cisco UCS Server Configuration Utility](#) について, 1 ページ
- サポートされるオペレーティング システム, 2 ページ
- サポートされるプラットフォーム, 2 ページ
- サポートされている周辺デバイス, 2 ページ
- ハードウェア要件, 4 ページ

Cisco UCS Server Configuration Utility について

Cisco UCS Server Configuration Utility (以降 UCS-SCU と呼びます) は、サーバ上のさまざまなタスクを管理するのに役立つアプリケーションです。このユーティリティは、単一のアプリケーションからサーバを簡単に設定および管理するのに役立ちます。

UCS-SCU は、Cisco C シリーズ サーバの設定と保守に関連する複雑さを軽減し、時間を短縮します。サーバの導入も容易になります。このマニュアルには、最小限のリブートおよびオペレーティングシステムの自動的な無人インストールで、サーバハードウェアの自動認識を通じてサーバをすばやく設定するために役立つ質問を示します。

UCS-SCU は 32 ビット Linux カーネルに基づくブート可能イメージであり、1 台のサーバで同時に動作するように設計されています。

UCS-SCU を使用すると、次の作業を実行できます。

- UCS C シリーズ サーバのアップグレード、トラブルシューティング、および設定を行います。
- サーバインベントリを表示します。
- BIOS のブート順序を設定します。
- 接続されているハード ドライブの RAID ボリュームを設定します。

- オペレーティングシステムをインストールします。
- インタラクティブ オフライン診断を実行します。
- サーバの状態およびログを表示します。

サポートされるオペレーティングシステム

UCS-SCU は、次のオペレーティングシステムの無人インストールをサポートしています。

- Windows Server 2012
- Windows Server 2008 R2 (64 ビット)
- Windows Server 2008 R2 SP1 (64 ビット)
- Red Hat Enterprise Linux 5 Update 7 (x86-64)
- Red Hat Enterprise Linux 6 Update 1 (x86-64)
- Red Hat Enterprise Linux 6 Update 2 (x86-64)
- SUSE Linux Enterprise Server 11 (SP1 および SP2)

サポートされるプラットフォーム

UCS-SCU は次のシスコプラットフォームでサポートされています。

- UCS-C22 M3
- UCS-C24 M3
- UCS-C220 M3
- UCS-C240 M3
- UCS-C260 M2
- UCS-C420 M3
- UCS-C460 M2

サポートされている周辺デバイス

次の表に、UCS-SCU でサポートされる LOM および LSI コントローラ デバイスを示します

サーバ	LOM デバイス	LSI コントローラ	サポートされる RAID レベル
C22	Intel I350	<ul style="list-style-type: none"> • 9265-8i • 9240-8i • 9220-4i • 9220-8i 	0、1、5 (TSOCがサーバにインストールされている場合)、10
C24	Intel I350	<ul style="list-style-type: none"> • 9265-8i • 9240-8i • 9220-8i 	0、1、5 (TSOCがサーバにインストールされている場合)、10
C220、C240	Intel I350	LSI 9266-8i	0、1、5、6、10、50、60
		Cisco UCSC RAID SAS 2008M-8i	0、1、5、10、50
		LSI 内蔵の MegaRAID	0、1、5 (Thin small-outline C-lead (TSOC) がサーバにインストールされている場合に使用可能)、10
C260	Broadcom BCM5709 Broadcom BCM57711	LSI 9261-8i	0、1、5、6
C460	Broadcom BCM5709 Broadcom BCM57711	<ul style="list-style-type: none"> • LSI 9260-8i • LSI 9240-8i 	0、1、5、6
C420 M3	Intel I350	<ul style="list-style-type: none"> • LSI 9271-8i • LSI 9286-8E 	<ul style="list-style-type: none"> • 0、1、5、6、10、50、60 • 0、1、5、10、50



(注) UCS-SCU の RAID 設定ユーティリティは、システムの再起動後にこの機能エリアを開始した後でのみ物理ドライブを検出します。この機能エリア内で移動中にハードディスクのドライブを削除または追加しないでください。



(注) 一部の LSI RAID コントローラは、RAID 設定中の動作完了に時間がかかります。SCU はこの問題を制御しません。回避策として、RAID を再作成するか、動作が完了するのを待つことができます。

ハードウェア要件

次に、UCS-SCU の最低ハードウェア要件を示します。

- CD-ROM ドライブ：UCS-SCU を起動し、実行するためには、USB CD/DVD-ROM ドライブが必要です。UCS-SCU を起動するために、CIMC KVM で仮想メディア オプションも使用できます。
- マウス：一部の機能では、ナビゲーション用に標準マウス (PS/2 または USB) が必要です。
- USB ディスク オンキー デバイス：UCS-SCU のログの保存などの機能のために、USB ディスク オンキーが必要です。
- RAM：最低 1 GB の RAM。使用可能な RAM が最低推奨値より小さい場合、UCS-SCU は適切に機能しません。
- ネットワーク アダプタ：シスコの Web サイトからの OS ドライバのダウンロードなど、一部のオプション機能にはネットワーク アクセスが必要です。任意の単一のオンボード NIC アダプタ接続がサポートされます。



(注) 現在 UCS-SCU は Intel と Broadcom のアダプタのみをサポートします。

- RAID カード：RAID 設定および OS のインストールは、選択されたコントローラでサポートされます。詳細については、次のマニュアルを参照してください。
 - [ハードウェアおよびソフトウェア相互運用性マトリクス](#)



第 2 章

UCS-SCU の開始

この章の内容は、次のとおりです。

- [cisco.com](#) からの UCS-SCU ISO イメージの取得, 5 ページ
- UCS-SCU の起動, 6 ページ
- UCS-SCU の終了, 9 ページ

cisco.com からの UCS-SCU ISO イメージの取得

システムで UCS-SCU を起動する前に、UCS-SCU ISO イメージをダウンロードする必要があります。

サーバ用の ISO ファイルをオンラインでダウンロードするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** <http://www.cisco.com/cisco/software/navigator.html> に進みます。
- ステップ 2** 中央のカラムで [Unified Computing and Servers] をクリックします。
- ステップ 3** 右側のカラムで [Cisco UCS C-Series Rack-Mount Standalone Server Software] をクリックします。
- ステップ 4** 右側のカラムのサーバモデルの名前をクリックします。
- ステップ 5** [Select a Software Type] リストで、[Unified Computing System (UCS) Server Configuration Utility] を選択します。
[Download Software] ページが表示され、リリースバージョンおよび UCS-SCU イメージが示されます。

- ステップ 6 [Download] をクリックして ISO ファイルをダウンロードします。
- ステップ 7 次のページで情報を確認後、[Proceed With Download] をクリックします。プロンプトが表示された場合は、cisco.com の資格情報を使用して、ログインします。
- ステップ 8 次の画面に進んでライセンス契約に同意し、ユーティリティの zip ファイルを保存する場所を参照します。
- ステップ 9 SCU の zip ファイルの内容を展開し、SCU ISO ファイルが保存されている場所をメモします。
-

UCS-SCU の起動

Cisco Flexible Flash の使用

Cisco Flexible Flash について

一部の C シリーズ ラックマウント サーバは、サーバソフトウェア ツールおよびユーティリティのストレージとして、内部 Secure Digital (SD) メモリ カードをサポートします。SD カードは、Cisco Flexible Flash ストレージアダプタによってホストされます。

CIMC は、SD ストレージを 4 つの仮想 USB ドライブとして使用できます。4 つの仮想 USB ドライブのうち 3 つはシスコソフトウェアにあらかじめロードされており、4 つ目はユーザがハイパーバイザまたはその他のコンテンツにインストールします。4 つの仮想ドライブは次のとおりです。

- Cisco UCS Server Configuration Utility (ブート可能)
- ユーザがインストール (ブート可能な場合あり)
- シスコ ドライバ (ブート不可)
- Cisco Host Upgrade Utility (ブート可能)

Cisco Flexible Flash カードはラック サーバに組み込まれており、これによってユーティリティソフトウェアが製造工程で出荷時に事前ロード可能になります。

また、ユーティリティソフトウェアは、他のファームウェア更新とともにオンラインで入手できるようになる場合があります。これらの更新は、UCS-SCU GUI を通じて、Cisco Flexible Flash カードのストレージにダウンロードできます。

Cisco Flexible Flash からの UCS-SCU の起動

Cisco Flexible Flash カードから UCS-SCU をロードするには、次の手順を実行します

手順

-
- ステップ 1** 起動時に、ブート選択メニューを開始するには、F6 キーを押します。ブート選択メニューが表示されます。
- ステップ 2** SCU を選択するには、矢印キーを使用し、Enter キーを押します。
- (注) F6 ブート選択画面の [Drivers] オプションは、ブート可能なオプションではありません。誤ってこのオプションを選択すると、回避策としてサーバを再起動し、異なるオプションを選択する必要があります。HUU オプションと SCU オプションは、ブート可能です。システムの SD カードにダウンロードして書き込んだイメージのアプリケーションを起動するには、これらのオプションのいずれかを使用します。サーバの SD カードに SCU および HUU の最新のイメージをダウンロードする方法の詳細については、[Cisco Flexible Flash からの UCS-SCU の起動](#)、(6 ページ) を参照してください
-

仮想メディアの使用

KVM コンソールについて

仮想メディアを使用した UCS-SCU アプリケーションの起動に KVM コンソールを使用できます。KVM コンソールは CIMC からアクセス可能なインターフェイスであり、サーバへのキーボード、ビデオ、マウス (KVM) の直接接続をエミュレートします。KVM コンソールを使用すると、リモートの場所からサーバに接続できます。



-
- (注) KVM コンソールには、Java Runtime Environment (JRE) バージョン 1.5.0 以降が必要です。
-

KVM コンソールには次のタブがあります。

- [KVM] : このタブには、アプリケーションの起動時に UCS-SCU アプリケーションが表示されます。
- [Virtual Media] : このタブでは、仮想ドライブに次のものを対応付けることができます。
 - コンピュータまたはネットワーク上の CD/DVD
 - コンピュータまたはネットワーク上のディスク イメージ ファイル (ISO または IMG ファイル)
 - コンピュータ上の USB フラッシュ ドライブ

仮想 KVM コンソールの開始

仮想 KVM コンソールを開始するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1 CIMC にログインします。
 - ステップ 2 [Launch KVM Console] をクリックします。
仮想 KVM コンソールにサーバ コンソールが表示されます。
-

KVM からの UCS-SCU の起動

仮想 KVM コンソールを使用して UCS-SCU アプリケーションを起動するには、次の手順を実行します。

はじめる前に

始める前に、cisco.com から UCS-SCU ISO イメージファイルをダウンロードします。イメージをダウンロードする方法については、[cisco.com](#) からの UCS-SCU ISO イメージの取得、(5 ページ) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1 デスクトップから CIMC にログインします。
 - ステップ 2 KVM コンソールを起動するには、[Launch KVM Console] をクリックします
 - ステップ 3 [Virtual Media] タブをクリックします。
[Virtual Media] タブが開きます。
 - ステップ 4 [Add Image] をクリックします。
 - ステップ 5 ISO ファイルを参照して選択し、[Open] をクリックしてイメージをマウントします。
 - ステップ 6 [Client View] セクションで、追加した ISO ファイルに対応する [Mapped] カラムのチェックボックスを選択して、マッピングが完了するのを待ちます。
KVM コンソールの [Details] セクションに進行状況が表示されます。
 - ステップ 7 CIMC で をクリックしてサーバを再起動します。
 - ステップ 8 サーバが起動したら、F6 キーを押してブート デバイスを選択します。
ブート選択メニューが表示されます。
 - ステップ 9 [Cisco Virtual CD/DVD] を選択するには、矢印キーを使用し、Enter キーを押します。
サーバは UCS-SCU イメージを使用して起動し、[KVM] タブでアプリケーションを起動します。
-

物理メディアの使用

物理 CD/DVD を使用してサーバ上でアプリケーションを起動するには、次の手順を実行します。

はじめる前に

開始する前に、次の手順を実行します。

- シスコの Web サイトから UCS-SCU ISO イメージファイルをダウンロードします。イメージをダウンロードする方法については、「[cisco.com からの ISO イメージの取得](#)」を参照してください。
- .iso CD を書き込むアプリケーションを使用して .iso CD 作成します。

手順

-
- ステップ 1** USB ポート経由でサーバに USB DVD ドライブを接続します。
 - ステップ 2** DVD ドライブに物理メディアを挿入します。
 - ステップ 3** サーバを再起動し、F6 キーを押してブート選択メニューを開始します。ブートデバイスとして CDROM ドライブを選択します。
サーバは UCS-SCU イメージを使用して起動し、アプリケーションを開始します。
-

UCS-SCU の終了

UCS-SCU アプリケーションを終了するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** ディスク ドライブからの .iso ディスクを取り出します。
 - ステップ 2** [Reboot] をクリックして、サーバのリブートを確認するために [Yes] をクリックします。
-



第 3 章

UCS-SCU ユーザ インターフェイスの概要

この章の内容は、次のとおりです。

- [ライセンス契約, 11 ページ](#)
- [UCS-SCU グラフィカルユーザ インターフェイスの概要, 12 ページ](#)
- [ネットワークの設定, 15 ページ](#)
- [サーバヘルス チェックの実行, 16 ページ](#)
- [ログの保存, 17 ページ](#)
- [サーバスナップショットの使用, 17 ページ](#)
- [Cisco Flexible Flash へのイメージの更新, 19 ページ](#)
- [サーバの再起動, 21 ページ](#)

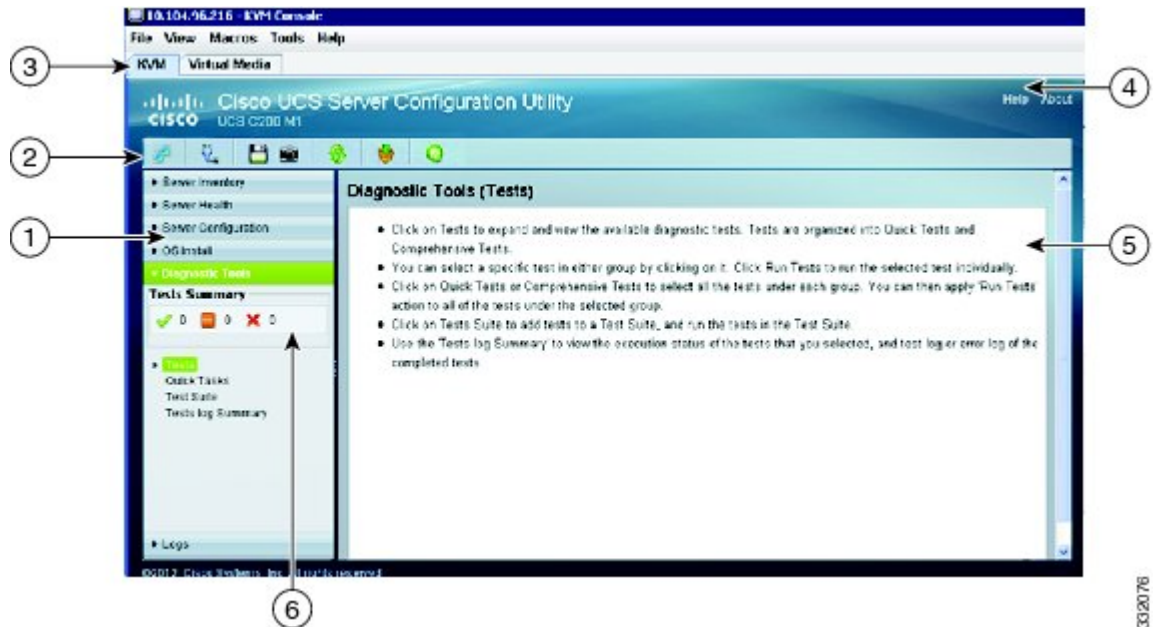
ライセンス契約

UCS-SCU が起動したら、最初のインターフェイスは、エンドユーザライセンス契約です。 [I Accept] を選択して [Next] をクリックし、このライセンスに同意します。

UCS-SCU グラフィカル ユーザ インターフェイスの概要

次の図に、UCS-SCU GUI および GUI のさまざまな要素を示します。

図 1 : UCS-SCU GUI



この表では、図の吹き出しについて説明します。

1	[Navigation] ペイン
2	ツールバー
3	タブ
4	Help
5	[Content] ペイン
6	[Tests Summary] ペイン

この表には、各要素の説明を示します。

表 1: UCS-SCU GUI の要素

[Navigation] ペイン	UCS-SCU のユーザインターフェースの左側に表示されます。すべてのナビゲーションペインの要素の詳細については、表 3-2 を参照してください。
ツールバー	左上隅に表示され、一連のアイコンがあります。すべてのツールバーアイコンの説明については、表 3-3 を参照してください。
タブ	UCS-SCU の次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • [KVM] : KVM コンソールを開始するには、このタブを使用します。 • [Virtual Media] : 仮想メディアにアクセスするには、このタブを使用します。
Help	表示されたページの状況依存ヘルプを表示するアプリケーションのウィンドウを開きます。
[Content] ペイン	GUI の右側に表示されます。[Navigation] ペインで選択したタブに応じて、異なるページがコンテンツペインに表示されます。
[Tests Summary] ペイン	合格したテストの詳細、キュー内のテスト、テストの失敗が表示されます。診断ツールが選択されている場合にだけ表示されます。

この表では、[Navigation] ペインの要素について説明します。

表 2: [Navigation] ペイン

Server Inventory	<p>サーバの情報およびインベントリを表示します。</p> <p>次のページへのリンクがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Server Information • Inventory <p>サーバインベントリに関する詳細については、第4章「サーバインベントリの表示」を参照してください。</p>
------------------	---

Server Health	<p>CPU、メモリ、電源、ファン、ストレージ、PCI デバイス、BIOS、および CIMC などのサーバのサブシステムの状態を表示します。</p> <p>サーバヘルスに関する詳細については、第 5 章「サーバヘルスの表示」を参照してください。</p>
Server Configuration	<p>BIOS のブート順を設定し、サーバの接続されたハードドライブの RAID ボリュームを設定します。</p> <p>次のページへのリンクがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ブート順の設定 • RAID 設定 <p>サーバ設定の詳細については、第 8 章「ブート順と RAID レベルの設定」を参照してください。</p>
OS Install	<p>完全な無人モードで RHEL、SLES、Windows オペレーティング システムをインストールします。すべてのオンボードコンポーネントの最新のドライバが、オペレーティングシステムのインストール時に Tools and Drivers CD またはその他のサポートされている場所から追加されます。</p> <p>OS のインストールの詳細については、第 6 章「オペレーティングシステムのインストール」を参照してください。</p>
Diagnostic Tools	<p>サーバ障害を検出するために、さまざまな種類の診断テストを実行できます。</p> <p>診断ツールの詳細については、第 7 章「診断ツール」を参照してください。</p>
Logs	<p>サーバのシステム ログおよびシステム イベント ログが表示されます。</p> <p>次のページへのリンクがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • システム ログ • System Event Log <p>ログの詳細については、第 9 章「ログの表示」を参照してください。</p>

この表では、特定のタスクの実行に使用可能なすべての UCS-SCU アイコンを示し説明します。

表 3: [Toolbar] ペイン

ツールバー アイコン	名前	機能
	Network Configuration	IP アドレス、DNS、サブネットマスク、および Cisco.com の資格情報を設定します。
	Probe Server	ヘルス チェックを行います
	Save Logs	USB にログを保存します
	Server Snapshot	サーバのその時点のインベントリを取得できます。
	Refresh	サポートされている場合、コンテンツ領域を更新します。
	Update	UCS-SCU、OS のドライバ、および Host Upgrade Utility の最新バージョンをダウンロードできます。
	Reboot	サーバを再起動します。

ネットワークの設定

UCS-SCU のネットワーク設定では、IP の詳細、プロキシの詳細、シスコの資格情報などを指定することで、ネットワークを設定することができます。これは一度だけ実行するプロセスであり、ネットワークを設定しない場合、次の手順の実行中に設定するように求められます。

- Cisco Flexible Flash にイメージを更新するとき。 ([Cisco Flexible Flash へのイメージの更新](#), (19 ページ) の項を参照)。

- オペレーティング システムのインストール時に、ネットワーク共有または cisco.com からドライバをダウンロードするとき。（インストール ドライバ、(35 ページ) の項を参照）。

ネットワークを設定するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** ツールバーの [Network Configuration] ボタンをクリックします。
[Network Configuration] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 2** [Network Configuration] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
- a) [IP Address from DHCP server] または [Static IP Address] を選択します。 [Static IP Address] を選択した場合は、次の手順を実行します。
- [IP Address] フィールドに、IPv4 アドレスを入力します。
 - [Subnet Mask] フィールドに、サブネットの IPv4 アドレスを入力します。
 - [Gateway] フィールドに、ゲートウェイ IPv4 アドレスを入力します。
 - (任意) [DNS] フィールドに、DNS の IPv4 アドレスを入力します。
- (注) ステップ b) に進みます。 cisco.com からソフトウェアおよびドライバをダウンロードする場合。
- b) [Direct Connection to internet] または [Manual Proxy] を選択します。 [Manual Proxy] を選択した場合は、次の手順を実行します。
- [HTTP Proxy Server URL] フィールドに、プロキシサーバの URL を入力します。最大文字数は 45 文字です。
 - [Port] フィールドにポート番号を入力します。最大文字数は 5 文字です。デフォルトでは 8080 です。
 - [Proxy Server UserName] フィールドに、プロキシサーバのユーザ名を入力します。最大文字数は 45 文字です。
 - [Proxy Server Password] フィールドに、プロキシサーバのパスワードを入力します。最大文字数は 45 文字です。
- ステップ 3** 設定を保存するには、[Configure] をクリックします。
-

サーバヘルス チェックの実行

Probe Server 機能では、サーバサブシステムのヘルス チェックを実行できます。 [Probe Server] アイコンをクリックすると、サーバヘルス チェックが開始されます。

ヘルス チェックの結果を表示するには、ナビゲーション ペインの [Server Health] タブをクリックします。

ログの保存

Save Logs 機能を使用してログ ファイルを保存できます。Save Logs を使用する前に、ログ ファイルを保存するための USB フラッシュ ドライブまたは vMedia を挿入する必要があります。

サーバスナップショットの使用

UCS SCU のユーザーインターフェイスで Server Snapshot 機能を使用して、サーバのその時点のインベントリを取得できます。この機能では、特定の期間内のサーバのインベントリまたはコンポーネントを比較することができます。サーバのスナップショットを開始する前に、サーバに USB フラッシュ ドライブが接続されていることを確認します。フラッシュ ドライブが使用できないと、サーバスナップショットで作成されたログ ファイルは保存されません。

サーバスナップショットを開始すると、UCS SCU はサーバ コンポーネントに関する情報を取得し、サーバの状態を判断するために一連のクイックテストを実行します。サーバスナップショットの取得には約 20 分かかる可能性があります。サーバスナップショット処理が完了すると、ログ ファイルが指定した USB フラッシュ ドライブに保存されます。ワードパッドなどの任意のエディタでこのログ ファイルを開くことができます。期間ごとのサーバインベントリを比較できるように、これらのログ ファイルを特定の場所に保管することをお勧めします。複数のログ ファイルがある場合、サーバインベントリの違いを表示するために、インターネットから入手した比較ツールを使用できます。

サーバのスナップショットを取得するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** サーバに、または vMedia を介して USB フラッシュ ドライブを接続します。
このフラッシュ ドライブがないと、サーバスナップショット ログ ファイルを保存できません。フラッシュ ドライブにログ ファイルを保存するための十分なスペースがあることを確認してください。
- ステップ 2** UCS SCU インターフェイスの [Server Snapshot] アイコンをクリックします。
USB フラッシュ ドライブの装着を求めるダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3** [Yes] をクリックして続行します。
ダイアログボックスで、ログ ファイルの保存先となる USB フラッシュ ドライブを選択するように求められます。
- ステップ 4** ドロップダウン メニューから、USB フラッシュ ドライブを選択し、[Save] をクリックします。
サーバスナップショット処理が開始されます。この処理には、最大 20~30 分かかります。サーバスナップショット処理の進行状況を示すダイアログボックスが表示されます。この処理中は、

サーバでその他のタスクを実行できません。処理中にいつでも、ダイアログボックスの [Cancel] をクリックして、サーバのスナップショット処理をキャンセルできます。

(注) サーバスナップショット処理中、KVM 接続が終了しても、サーバスナップショット処理は中止されません。KVM コンソールに再度ログインすると、サーバのスナップショット処理がまだ実行中または実行完了したことがわかります。ただし USB フラッシュドライブが vMedia 経由で接続されている場合に KVM 接続が終了すると、USB フラッシュドライブへの接続が失われるので、サーバスナップショット処理が停止します。

スナップショット処理が完了した後にサーバのスナップショット処理が完了したことを示すダイアログボックスメッセージが表示されます

ステップ 5 [OK] をクリックします。

ログ ファイルは、USB フラッシュドライブに保存されます。ログ ファイルはテキスト ファイルであり、サーバ名とともに保存され、サーバスナップショットが取得された日付が含まれます。たとえば、Server_C260-BASE-2646_FCH1234345_06_08_2011 は 2001 年 8 月 6 日に UCS C-260 サーバ用に取得されたサーバスナップショットのログ ファイル名です。

ステップ 6 任意のエディタでこのファイルを開きます。

(注) 一定の期間にわたり同じサーバのインベントリ情報を比較するため、比較のために常に使用できるように、これらのログ ファイルをアーカイブすることをお勧めします

サーバのクイックテストの実行中に、サーバのスナップショット機能は、サーバコンポーネントがテストに合格したか失敗したかのみを判断できます。コンポーネントがクイックテストに合格しない理由は特定できません。サーバスナップショット処理のログ ファイルの表示中に、サーバコンポーネントがクイックテストに合格しなかったことに気づいた場合は、Diagnostics Tools の下にあるクイックテストログを確認してください。



(注) Diagnostics Tools の詳細については、第 7 章「診断ツールの概要」を参照してください。

サーバスナップショット処理のログ ファイルには次の情報が含まれます。

- Chassis Summary
- BaseBoard Summary
- CIMC Summary
- Processor Summary
- Memory Summary
- Storage Summary
- PCI Adapter Summary
- Power Supply Summary
- Server diagnostics Quick Test Results

- Server Probe Data

Cisco Flexible Flash へのイメージの更新

UCS-SCU、オペレーティング システムのドライバ、および Host Upgrade Utility (HUU) の最新バージョンをダウンロードするために UCS-SCU GUI を使用できます。これらのイメージは、それぞれのパーティション上のシステムの SD カードに書き込むことができます。

UCS-SCU GUI を使用して Cisco Flexible Flash にイメージを更新するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** ツールバーの [Update] アイコンをクリックします。
[Cisco Flex Flash Software Update] ダイアログボックスが表示され、パーティションのリストを表示します。
- ステップ 2** リストの [Cisco Server Configuration Utility] を選択します。
次のいずれかの方法を使用して SD カードにイメージを更新できます。
- [cisco.com からの更新](#), (19 ページ)
 - [ネットワークからの更新](#), (20 ページ)
- ステップ 3** [Apply] をクリックして、イメージを適用します。
[Cisco Flex Flash Software Update] ダイアログボックスが表示され、テーブルがイメージのバージョンで更新されます。
- ステップ 4** 残りのパーティションに対してステップ 1 からステップ 4 を繰り返します。
-

cisco.com からの更新

cisco.com からの Cisco Flexible Flash にイメージを更新するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco.com] をクリックします。
ネットワークまたはユーザ資格情報が設定されていない場合は、[Network Configuration] ダイアログボックスが表示されます。設定されている場合、[Select Updates] ダイアログボックスが表示されます。ネットワークを設定する必要がある場合は、ステップ 2 に進みます。ネットワークを設定する必要がない場合は、ステップ 3 に進みます。
- ステップ 2** [Network Configuration] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

- a) ネットワークを設定するには、IP アドレスを入力します。ネットワークの設定の詳細については、3-5 ページの検索「ネットワークの設定」を参照してください。
- b) [User Name] フィールドに、cisco.com のユーザ名を入力します。最大文字数は 45 文字です。
- c) [Password] フィールドに、cisco.com のパスワードを入力します。最大文字数は 45 文字です。

ステップ 3 表示される [Select Updates] ダイアログボックスで、ISO イメージの必要なバージョンを選択します。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

ネットワークからの更新

ネットワークから Cisco Flexible Flash にイメージを更新するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 ネットワークを [From Network] をクリックします。
ネットワークまたはユーザ資格情報が設定されていない場合は、[Network Configuration] ダイアログボックスが表示されます。設定されている場合、[Network Location] ダイアログボックスが表示されます。ネットワークを設定する必要がある場合は、ステップ 2 に進みます。ネットワークを設定する必要がない場合は、ステップ 3 に進みます。

ステップ 2 [Network Configuration] ダイアログボックスで、ネットワークを設定するには、IP アドレスを入力します。ネットワークの設定の詳細については、3-5 ページの検索「ネットワークの設定」を参照してください。

ステップ 3 表示された [Network Location] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

- a) [User Name] フィールドに、ネットワーク ロケーションへのログイン名を入力します。
- b) [Password] フィールドに、ネットワーク ロケーションへのパスワードを入力します。
- c) [Network Location] フィールドに、ISO イメージファイルが格納されているフォルダのパス名を入力します。
- d) [Connect] をクリックします。
ファイル ダイアログボックスにイメージの一覧が表示されます。
- e) .iso イメージファイルを選択します。
- f) [Open] をクリックします。
選択したファイルが [Network Location] ダイアログボックスのパッケージ名として表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

サーバの再起動

サーバを再起動するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** ツールバーの [Reboot] アイコンをクリックします。
[Reboot] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 2** [Yes] をクリックして再起動します。
サーバが再起動し、UCS-SCU GUI が再表示されます。
-



第 4 章

サーバインベントリの表示

この章の内容は、次のとおりです。

- [サーバインベントリについて](#), 23 ページ
- [サーバインベントリ機能の使用](#), 24 ページ

サーバインベントリについて

サーバのインベントリを実行するためにサーバインベントリ機能を使用できます。サーバの概要、サーバプロパティに加えて、CPU、メモリ、電源、ファン、IOデバイス、ストレージ、BIOS、CIMC などのサーバ上のサブシステムのインベントリを表示できます。

次の表では、サーバインベントリに表示できるさまざまなサブシステムの詳細を説明します。

表 4: サーバインベントリのプロパティ

サブシステム	説明
CPU	サーバのソケット名、ステータス、コアの数、スレッド数、ベンダー、バージョン、有効なコア、CPU のシグニチャを表示します。
Memory	サーバの DIMM のサイズ、データの幅、ロケータ、速度、およびシリアル番号を表示します。
Power Supplies	サーバの電源装置の入力電力、出力電力 (W)、部品番号、バージョン、シリアル番号、製品名を表示します。
Fans	サーバのファンの状態、電源状態、速度を表示します。

サブシステム	説明
IO Devices	サーバの I/O デバイスのタイプ、ベンダー、説明、MAC アドレス、およびシリアル番号を表示します。
Storage	サーバのストレージデバイスのタイプ、説明、ベンダー、サイズ、バス情報、およびシリアル番号を表示します。
BIOS	サーバの BIOS のベンダー、バージョン、物理 ID、サイズ、キャパシティ、およびブート順を表示します。
CIMC	サーバの CIMC の IP アドレス、MAC アドレス、ファームウェアバージョン、および IPMI のバージョンを表示します。

サーバインベントリ機能の使用

サーバのインベントリを表示するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** 左側のナビゲーションペインの [Server Inventory] タブをクリックします。
 - ステップ 2** 左側のナビゲーションペインで [Server Information] タブをクリックします。サーバのプロパティとサーバの要約が表示されます。
 - ステップ 3** CPU、メモリ、電源、ファン、IO デバイス、ストレージ、BIOS、および CIMC などのサーバのサブシステムのインベントリを表示するには、[Inventory] タブをクリックします
-



第 5 章

サーバヘルスの表示

この章の内容は、次のとおりです。

- [サーバヘルスについて](#), 25 ページ
- [サーバヘルスの表示](#), 25 ページ

サーバヘルスについて

サーバヘルス機能を使用すると、特定のサブシステムのステータスおよびメッセージとともに、サーバのすべてのサブシステム（メモリ、プロセッサ、電源、ハードディスク、ファン、チップセット、および CIMC など）の状態を表示できます。

サーバヘルスの表示

サーバの状態を表示するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 左側のナビゲーション ペインで [Server health] タブをクリックします。サーバヘルスは、特定のサブシステムのステータスおよびメッセージとともに右側のコンテンツ ペインに表示されます。
- ステップ 2** サブシステムの最新のステータスを表示するには、ツールバーの [Probe Server] をクリックします。プローブサーバをクリックした後でページを更新するには、[Server Health] をもう一度クリックします。
- ステップ 3** [Server Health Details] ペインでサーバヘルスの詳細を表示するには、サブシステムに対応する行をクリックします。

(注) サーバヘルス ペインのメッセージ カラムに、サブシステムに対応する最初の問題が表示されます。サブシステムに複数の問題がある場合は、[Server Health Details] ペインに表示されます。



第 6 章

オペレーティング システムのインストール

この章の内容は、次のとおりです。

- [オペレーティング システムのインストールについて, 27 ページ](#)
- [高速インストールの実行, 28 ページ](#)
- [Windows のカスタム インストールの実行, 31 ページ](#)
- [Linux サーバ シリーズ オペレーティング システムのカスタム インストールの実行, 36 ページ](#)
- [SUSE Linux サーバ オペレーティング システムのカスタム インストールの実行, 41 ページ](#)

オペレーティング システムのインストールについて

無人のオペレーティング システムのインストール機能は、Microsoft Windows、RedHat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES) オペレーティング システムのインストールに役立ちます。UCS-SCUには、RAID ドライバを含むデバイス ドライバが組み込まれており、追加のドライバロード手順や、USB などのデバイスを使用せずに、サポートされる RAID 論理アレにオペレーティング システムをインストールすることができます。

UCS-SCU は仮想ディスクのみでオペレーティング システムのインストールをサポートします。物理ディスクでのインストールはサポートされていません。UCS-SCU でサポートされているすべてのオペレーティング システムは、Windows、RHEL、および SLES の 3 のグループに分類されています。



(注) オペレーティング システムを C220 および C240 サーバにインストールする際、オペレーティング システム CD を提供した後で、インストールを続行するためにリブートするよう求められます。この時点で、サーバのブート順を変更し、最初のブートデバイスとして適切な HDD または VD を設定する必要があります。



(注) オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、ウォッチドッグ タイマーを無効にしてください。この機能がイネーブルで、値がOSのインストールに必要な時間よりも小さい期間に設定されていると、オペレーティングシステムのインストール プロセスは中断されます。このウォッチドッグ タイマー機能は、指定された期間後に自動的にサーバを再起動するか、電源をオフにします。

オペレーティングシステムをインストールするには、次の2つの方法があります。

- 高速インストール：デフォルト設定値を使用してオペレーティングシステムをインストールするには、[Quick Install] オプションを使用します。
- カスタム インストール：オペレーティングシステムをインストールする前にデフォルト設定を変更するには、[Custom Install] オプションを使用します。パラメータが変更されていない場合、カスタム インストールはデフォルトパラメータで実行され、SCU のブート メディアからドライバがダウンロードされます。

高速インストールの実行

OS の高速インストールを実行するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 無人オペレーティングシステムインストールの機能エリアを開始するには、左側のナビゲーション ペインで [OS Install] をクリックします。
[OS Install] ページが表示されます。
- ステップ 2** オペレーティングシステムのオプション ボタンのいずれかをクリックします。
- ステップ 3** [Operating System] ドロップダウンリストから、オペレーティングシステムのバージョンを選択します。
- ステップ 4** (Windows の場合) [Edition] ドロップダウン リストから、オペレーティング システムのエディションを選択します。
[Default Settings] 領域と、[Quick Install] およびカスタム [Custom Install] ボタンが表示されます。
次の表に、Windows オペレーティング システムの [Default Settings] 領域に表示されるデフォルトパラメータを示します。

表 5: デフォルトのパラメータ (Windows の場合)

パラメータ	デフォルト値
Time Zone	Central American Standard Time
Name	admin

パラメータ	デフォルト値
Organization	Organization
Computer Name	Computer
Network	DHCP
Work Group Name	WORKGROUP
Drivers	すべてのドライバが SCU のブート メディアからインストールされます
Firewall	Disabled
RDP	Disabled
Disk Details	
Disk Name	LSI
Disk Size	40 GB 以上
Partition Details	
Drive Letter	C
File System	NTFS
Size (MB)	論理ディスクによって異なります

次の表は、Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムの [Default Settings] 領域に表示されるデフォルトパラメータを示します。

表 6: デフォルトのパラメータ (RHEL の場合)

パラメータ	デフォルト値
Time Zone	America/New_York
Name	root
Network	DHCP
Drivers	すべてのドライバが SCU のブート メディアからインストールされます
Disk Details	

パラメータ	デフォルト値
Disk Name	LSI
Disk Size	論理ディスクによって異なります
Partition Details	
Drive Letter	
File System	ext3
Size (MB)	論理ディスクによって異なります
Drive Letter	
File System	linux-swap
Size (MB)	2048

次の表に、SUSE Linux Enterprise Server (SLES) オペレーティングシステム用の [Default Settings] 領域に表示されるデフォルトパラメータを示します。

表 7: デフォルトのパラメータ (SLES の場合)

パラメータ	デフォルト値
Time Zone	America/New_York
Name	root
Network	DHCP
Drivers	すべてのドライバが SCU のブートメディアからインストールされます
Disk Details	
Disk Name	LSI0-Logical Vol-2
Disk Size	論理ディスクによって異なります
Partition Details	
Drive Letter	/
File System	ext3

パラメータ	デフォルト値
Size (MB)	論理ディスクによって異なります
Drive Letter	swap
File System	linux-swap
Size (MB)	2048 以上

ステップ 5 インストールを完了するために、[Quick Install] をクリックします。実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。

(注) オペレーティングシステムをインストールする前に論理ディスクが作成されていることを確認します。論理ディスクがない場合、次のようになります。

- ディスクの詳細が [Default Settings] 領域の下に表示されません
- [Quick Install] および [Custom Install] ボタンが表示されません
- 次の警告メッセージが表示されます。

論理ディスクがシステムに見つからないため、OS のインストールはできません。RAID 設定を使用して論理ディスクを作成してください。

Windows のカスタム インストールの実行

Windows Server オペレーティングシステムを無人インストールするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 無人オペレーティングシステムインストールの機能エリアを開始するには、左側のナビゲーションペインで [OS Install] をクリックします。
[OS Install] ページが表示されます。
- ステップ 2** [Windows] オプション ボタンをクリックし、[Operating System] ドロップダウン リストからオペレーティングシステムを選択します。
[Edition] ドロップダウン リストが表示されます。
- ステップ 3** [Edition] ドロップダウン リストから、エディションを選択します。
[Default Settings] 領域と、[Quick Install] およびカスタム [Custom Install] ボタンが表示されます。

(注) ドロップダウン リストの [Windows Server 2008 R2] オプションは、Windows Server 2008 R2 と Windows Server 2008 R2 SP1 で同じです。使用するインストール CD に応じて (Win2k8 R2 または Win2k8R2 SP1) 、対応する Windows OS バージョンがインストールされます。

ステップ 4 [Custom Install] をクリックします。
実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。新しい [OS Install] ページが、次の折りたたみ可能ウィンドウのリストとともに表示されます

- [Personalization] : パーソナライズ設定を実行するには、[パーソナライズ](#)、(32 ページ) に進みます
- [Installation Partitions] : インストールのパーティションを設定するには、[インストールパーティション](#)、(33 ページ) に進みます
- [Network Settings] : ネットワークを設定するには、[ネットワーク設定](#)、(34 ページ) に進みます
- [Installation Drivers] : ドライバを設定するには、[インストール ドライバ](#)、(35 ページ) に進みます

ステップ 5 [Install] をクリックします。
実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。UCS-SCU CD を取り出し、必要なオペレーティングシステム CD を挿入するように要求する、[OS Install] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 6 オペレーティングシステム CD を挿入し、[Ok] をクリックします。
システムが再起動し、オペレーティングシステムのインストールが開始されます。

パーソナライズ

パーソナライズ設定を行うには、次の手順に従ってください。

手順

対応するウィンドウを開くには、[Personalization] をクリックします。
[Personalization] ウィンドウで、次の手順を実行します。

- [Time Zone] ドロップダウン リストから、時間帯を選択します。
- [Name] フィールドに、管理者の名前を入力します。最大文字数は 20 文字です。
- [Organization] フィールドに、管理者の組織名を入力します。最大文字数は 15 文字です。
- ライセンスをアクティブ化する必要がある場合は、[License Information] オプションボタンのうちの 1 つを選択し、25 文字のプロダクト キーを入力します。

- [Computer Name] フィールドに、サーバの名前を入力します。最大文字数は 15 文字です。
- [Description] フィールドに、サーバの説明を入力します。最大文字数は 25 文字です。

インストールパーティション

インストールパーティションを設定するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** 対応するウィンドウを開くために [Installation Partitions] をクリックします。
- ステップ 2** [Installation Partitions] ウィンドウで、次の手順を実行します。
- a) [Select Disk] ドロップダウンリストで、論理パーティションを作成するディスクを選択します。
 - b) 対応するパーティションの詳細を表示するためにディスクの名前をクリックします。
ディスク エントリが展開され、パーティション名、ドライブ文字、ファイル システム、使用されている領域 (MB 単位) が表示されます。
 - c) パーティションを編集するには、次の手順を実行します。
 - 編集するパーティションを選択し、[Edit] をクリックします。
編集するパーティションを選択し、[Edit] をクリックします。
 - [Edit Partition] ダイアログボックスで、次を実行します。
 - [Drive Letter] ドロップダウンリストから、ドライブを選択します。
 - [Size] テキスト フィールドに、パーティションサイズを入力します。
(注) サイズは使用できるディスク容量を超えてはなりません。
 - [File system] ドロップダウンリストから、ファイル システムを選択します。
 - [OK] をクリックして変更を保存します
 - d) 新しいパーティションを作成するには、次の手順を実行します
 - 空き領域を選択し、[New] をクリックします。
[Create Partition] ダイアログボックスが表示されます。
 - [Create Partition] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
 - [Driver Letter] ドロップダウンリストから、ドライブを選択します。
 - [Size] フィールドで、ディスク サイズを編集します。
(注) サイズは使用できるディスク容量を超えてはなりません。

- ° [File System] ドロップダウン リストから、ファイル システムを選択します。
- ° [OK] をクリックします。

e) パーティションを削除するには、次の手順を実行します。

- 削除するパーティションを選択し、[Delete] をクリックします。
[OS Install] ダイアログボックスが表示されます。
- パーティションを削除する場合は [Yes] をクリックします。

(注) Red Hat Enterprise Linux では、ルートおよびスワップ パーティションが必要です。パーティション作成プロセス中でサイズを指定しないと、UCS-SCUはアラートメッセージを生成して、別のパーティション設定を推奨します。Linux のパーティションについて習熟していない場合は、これを受け入れます。

ネットワーク設定

ネットワーク設定では、インストール時にオペレーティング システムによって検出されるオンボード ネットワーク アダプタのネットワーク設定値を入力することができます。これらの設定は、CIMC のネットワーク設定に影響を与えません。オペレーティング システムと CIMC に異なる IP アドレスを設定することを推奨します。UCS-SCU で検出された各ネットワーク アダプタがネットワーク インターフェイス カラムに一覧表示されます。使用するオペレーティング システムによって、オペレーティング システムをインストールした後に、インターフェイス名が異なる場合があります。

ネットワーク設定を行うには、次の手順に従ってください。

手順

- ステップ 1** [Network Settings] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。
[Network Settings] ウィンドウに、使用できるネットワーク インターフェイスのリンク ステータスと、対応する IP アドレス、サブネット マスク、ゲートウェイ、DNS、リンク ステータス、ベンダー、タイプ、および MAC アドレスが表示されます。
- ステップ 2** [Network Mapping] ウィンドウで、次を実行します。
- a) [Work Group] または [Network Domain] 領域で、次のいずれかのオプションを選択します。
- ネットワークまたはドメインを追加する必要がない場合は、[No network] または [No domain] オプション ボタンを選択します。[Work Group Name] フィールドにワーク グループ名を入力します。最大文字数は 20 文字です。
 - [Join this Domain] オプション ボタンを選択し、次を実行します。

- [Domain Name] テキスト フィールドに、ドメインの名前を入力します。最大文字数は 20 文字です。
 - [Domain Username] に、ドメインのユーザ名を入力します。最大文字数は 20 文字です。
 - [Domain password] に、ドメインのパスワードを入力します。最大文字数は 20 文字です。
- b) リモートアクセス設定の [Enable Remote Access (RDP)] オプション ボタンを選択または選択解除します。
- c) ファイアウォール設定の [Disable Firewall] オプション ボタンを選択または選択解除します。
- d) [DNS Suffix/Domain] フィールドに、ドメインの DNS サフィックスを指定します。最大文字数は 25 文字です。
- e) [DNS Suffix Search Order 1] フィールドに、DNS サフィックスの検索順序を入力します。最大文字数は 25 文字です。
- f) [DNS Suffix Search Order 2] フィールドに、もう 1 つの DNS サフィックスの検索順序を入力します。最大文字数は 25 文字です。
- g) [Proxy Address] フィールドに、プロキシ サーバの IP アドレスまたは名前を入力します。最大文字数は 30 文字です。
- h) [Port] フィールドに、プロキシ サーバのポート番号を入力します。最大文字数は 5 文字です。
- i) 次の操作を実行して、ネットワーク設定を編集します。
- ネットワーク インターフェイスを選択し、[Edit] をクリックします。
[Network Settings] ダイアログボックスが表示されます。
 - [IP Address from DHCP server] または [Static IP Address] を選択します。[Static IP Address] を選択した場合は、次の手順を実行します。
 - [IP Address] フィールドに、IPv4 アドレスを入力します。
 - [Subnet Mask] フィールドに、サブネットの IPv4 アドレスを入力します。
 - [Gateway] フィールドに、ゲートウェイ IPv4 アドレスを入力します。
 - [DNS] フィールドに、DNS の IPv4 アドレスを入力します。
 - [OK] をクリックします。

インストール ドライバ

UCS-SCU は、ドライバのソースからダウンロードされる使用可能なすべてのドライバを表示します。インストールしないドライバを選択解除します。RAID ボリュームにオペレーティングシステムをインストールする場合は、適切な RAID コントローラ用のドライバを選択します。

インストール ドライバを設定するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [Installation Drivers] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。
- ステップ 2** [Choose Drivers to Install] テーブルから、インストールするドライバを選択します。ドライバが [Choose Drivers to Install] テーブルにない場合は、[Installation Drivers] ツールバーを使用してドライバをダウンロードします。ドライバをダウンロードするには、次のいずれかのオプションを選択します
- [Cisco.com](#) からのダウンロード
 - SCU ブートメディアからのダウンロード
 - ネットワーク共有からのダウンロード
 - USB からのダウンロード
-

Linux サーバシリーズオペレーティングシステムのカスタムインストールの実行

Linux オペレーティングシステムを無人インストールするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** 無人オペレーティングシステムインストールの機能エリアを開始するには、左側のナビゲーションペインで [OS Install] をクリックします。
[OS Install] ページが表示されます。
- ステップ 2** [RHEL] オプション ボタンをクリックし、[Operating System] ドロップダウン リストからオペレーティングシステムを選択します
[Default Settings] 領域と、[Quick Install] およびカスタム [Custom Install] ボタンが表示されます。
- ステップ 3** [Custom Install] をクリックします。
実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。新しい [OS Install] ページが、次の折りたたみ可能ウィンドウのリストとともに表示されます。
- [Basic Configuration] : パーソナライズ設定を実行するには、[基本設定](#)、(37 ページ) に進みます
 - [Installation Partitions] : インストールのパーティションを設定するには、[インストールパーティション](#)、(33 ページ) に進みます

- [Package Selection] : パッケージの選択を設定するには、[パッケージの選択](#)、(39 ページ) に進みます
- [Network Settings] : ネットワークを設定するには、[ネットワーク設定](#)、(34 ページ) に進みます
- [Installation Drivers] : ドライバを設定するには、[インストール ドライバ](#)、(35 ページ) に進みます

- ステップ 4** [Install] をクリックします。
実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。 [OS Install] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 5** [OK] をクリックします。
- ステップ 6** UCS-SCU CD を取り出し、必要なオペレーティング システム CD を挿入します。
-

基本設定

基本的な設定を行うには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [Basic Configuration] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。
- ステップ 2** [Basic Configuration] ウィンドウで、次を実行します。
- a) [Root Password] フィールドに、ルート パスワードを入力します。
 - b) [Confirm Root Password] フィールドに、ルート パスワードを再入力します。
 - c) [Default Language] ドロップダウン リストから、デフォルトの言語を選択します。
 - d) [Keyboard] ドロップダウン リストから、キーボード レイアウトのタイプを選択します。
 - e) [Time Zone] ドロップダウン リストから、時間帯を選択します。
 - f) [Additional Languages] リストで、該当するすべての言語を選択します。
-

インストールパーティション

インストールパーティションを設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 対応するウィンドウを開くために [Installation Partitions] をクリックします。
- ステップ 2** [Installation Partitions] ウィンドウで、次の手順を実行します。
- a) [Select Disk] ドロップダウンリストで、論理パーティションを作成するディスクを選択します。
 - b) 対応するパーティションの詳細を表示するためにディスクの名前をクリックします。
ディスク エントリが展開され、パーティション名、ドライブ文字、ファイル システム、使用されている領域 (MB 単位) が表示されます。
 - c) パーティションを編集するには、次の手順を実行します。
 - 編集するパーティションを選択し、[Edit] をクリックします。
編集するパーティションを選択し、[Edit] をクリックします。
 - [Edit Partition] ダイアログボックスで、次を実行します。
 - [Drive Letter] ドロップダウン リストから、ドライブを選択します。
 - [Size] テキスト フィールドに、パーティション サイズを入力します。
(注) サイズは使用できるディスク容量を超えてはなりません。
 - [File system] ドロップダウン リストから、ファイル システムを選択します。
 - [OK] をクリックして変更を保存します
 - d) 新しいパーティションを作成するには、次の手順を実行します
 - 空き領域を選択し、[New] をクリックします。
[Create Partition] ダイアログボックスが表示されます。
 - [Create Partition] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
 - [Driver Letter] ドロップダウン リストから、ドライブを選択します。
 - [Size] フィールドで、ディスク サイズを編集します。
(注) サイズは使用できるディスク容量を超えてはなりません。
 - [File System] ドロップダウン リストから、ファイル システムを選択します。
 - [OK] をクリックします。
 - e) パーティションを削除するには、次の手順を実行します。
 - 削除するパーティションを選択し、[Delete] をクリックします。
[OS Install] ダイアログボックスが表示されます。

- パーティションを削除する場合は [Yes] をクリックします。

(注) Red Hat Enterprise Linux では、ルートおよびスワップパーティションが必要です。パーティション作成プロセス中でサイズを指定しないと、UCS-SCUはアラートメッセージを生成して、別のパーティション設定を推奨します。Linux のパーティションについて習熟していない場合は、これを受け入れます。

パッケージの選択

パッケージの選択を設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 [Package Selection] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。
- ステップ 2 該当するチェックボックスをすべてオンにします。

ネットワーク設定

ネットワーク設定では、インストール時にオペレーティングシステムによって検出されるオンボードネットワークアダプタのネットワーク設定値を入力することができます。これらの設定は、CIMC のネットワーク設定に影響を与えません。オペレーティングシステムと CIMC に異なる IP アドレスを設定することを推奨します。UCS-SCU で検出された各ネットワークアダプタがネットワークインターフェイスカラムに一覧表示されます。使用するオペレーティングシステムによって、オペレーティングシステムをインストールした後に、インターフェイス名が異なる場合があります。

ネットワーク設定を行うには、次の手順に従ってください。

手順

- ステップ 1 [Network Settings] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。
[Network Settings] ウィンドウに、使用できるネットワークインターフェイスのリンクステータスと、対応する IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS、リンクステータス、ベンダー、タイプ、および MAC アドレスが表示されます。
- ステップ 2 [Network Mapping] ウィンドウで、次を実行します。
 - a) [Work Group] または [Network Domain] 領域で、次のいずれかのオプションを選択します。

- ネットワークまたはドメインを追加する必要がない場合は、[No network] または [No domain] オプション ボタンを選択します。 [Work Group Name] フィールドにワーク グループ名を入力します。最大文字数は 20 文字です。
- [Join this Domain] オプション ボタンを選択し、次を実行します。
 - [Domain Name] テキスト フィールドに、ドメインの名前を入力します。最大文字数は 20 文字です。
 - [Domain Username] に、ドメインのユーザ名を入力します。最大文字数は 20 文字です。
 - [Domain password] に、ドメインのパスワードを入力します。最大文字数は 20 文字です。
- b) リモート アクセス設定の [Enable Remote Access (RDP)] オプション ボタンを選択または選択解除します。
- c) ファイアウォール設定の [Disable Firewall] オプション ボタンを選択または選択解除します。
- d) [DNS Suffix/Domain] フィールドに、ドメインの DNS サフィックスを指定します。最大文字数は 25 文字です。
- e) [DNS Suffix Search Order 1] フィールドに、DNS サフィックスの検索順序を入力します。最大文字数は 25 文字です。
- f) [DNS Suffix Search Order 2] フィールドに、もう 1 つの DNS サフィックスの検索順序を入力します。最大文字数は 25 文字です。
- g) [Proxy Address] フィールドに、プロキシ サーバの IP アドレスまたは名前を入力します。最大文字数は 30 文字です。
- h) [Port] フィールドに、プロキシ サーバのポート番号を入力します。最大文字数は 5 文字です。
- i) 次の操作を実行して、ネットワーク設定を編集します。
 - ネットワーク インターフェイスを選択し、[Edit] をクリックします。
[Network Settings] ダイアログボックスが表示されます。
 - [IP Address from DHCP server] または [Static IP Address] を選択します。 [Static IP Address] を選択した場合は、次の手順を実行します。
 - [IP Address] フィールドに、IPv4 アドレスを入力します。
 - [Subnet Mask] フィールドに、サブネットの IPv4 アドレスを入力します。
 - [Gateway] フィールドに、ゲートウェイ IPv4 アドレスを入力します。
 - [DNS] フィールドに、DNS の IPv4 アドレスを入力します。
 - [OK] をクリックします。

インストール ドライバ

UCS-SCUは、ドライバのソースからダウンロードされる使用可能なすべてのドライバを表示します。インストールしないドライバを選択解除します。RAID ボリュームにオペレーティング システムをインストールする場合は、適切な RAID コントローラ用のドライバを選択します。

インストール ドライバを設定するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [Installation Drivers] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。
- ステップ 2** [Choose Drivers to Install] テーブルから、インストールするドライバを選択します。ドライバが [Choose Drivers to Install] テーブルにない場合は、[Installation Drivers] ツールバーを使用してドライバをダウンロードします。ドライバをダウンロードするには、次のいずれかのオプションを選択します
- [Cisco.com](#) からのダウンロード
 - [SCU ブート メディアからのダウンロード](#)
 - [ネットワーク共有からのダウンロード](#)
 - [USB](#) からのダウンロード
-

SUSE Linux サーバオペレーティングシステムのカスタムインストールの実行

SLES (SUSE Linux Enterprise Server) オペレーティング システムの無人インストールを実行するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** 無人オペレーティングシステムインストールの機能エリアを開始するには、左側のナビゲーション ペインで [OS Install] をクリックします。
[OS Install] ページが表示されます。
- ステップ 2** [SLES] オプション ボタンをクリックし、[Operating System] ドロップダウン リストからオペレーティング システムを選択します
[Default Settings] 領域と、[Quick Install] およびカスタム [Custom Install] ボタンが表示されます。
- ステップ 3** [Custom Install] をクリックします。

実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。新しい [OS Install] ページが、次の折りたたみ可能ウィンドウのリストとともに表示されます。

- [Basic Configuration] : パーソナライズ設定を実行するには、[基本設定](#)、(42 ページ) に進みます
- [Installation Partitions] : インストールのパーティションを設定するには、[インストールパーティション](#)、(33 ページ) に進みます
- [Package Selection] : パッケージの選択を設定するには、[パッケージの選択](#)、(39 ページ) に進みます
- [Network Settings] : ネットワークを設定するには、[ネットワーク設定](#)、(34 ページ) に進みます
- [Installation Drivers] : ドライバを設定するには、[インストール ドライバ](#)、(35 ページ) に進みます

- ステップ 4** [Install] をクリックします。
実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。 [OS Install] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 5** [OK] をクリックします。
- ステップ 6** UCS-SCU CD を取り出し、必要なオペレーティングシステム CD を挿入します。
-

基本設定

基本的な設定を行うには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [Basic Configuration] をクリックして、対応するウィンドウを開きます
- ステップ 2** [Basic Configuration] ウィンドウで、次を実行します。
- a) [Root Password] フィールドに、ルートパスワードを入力します。
 - b) [Confirm Root Password] に、ルートパスワードを再入力します。
 - c) [Default Language] ドロップダウンリストから、デフォルトの言語を選択します。
 - d) [Keyboard] ドロップダウンリストから、キーボードレイアウトのタイプを選択します。
 - e) [Time Zone] ドロップダウンリストから、時間帯を選択します。
-

インストールパーティション

インストールパーティションを設定するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** 対応するウィンドウを開くために [Installation Partitions] をクリックします。
- ステップ 2** [Installation Partitions] ウィンドウで、次の手順を実行します。
- [Select Disk] ドロップダウンリストで、論理パーティションを作成するディスクを選択します。
 - 対応するパーティションの詳細を表示するためにディスクの名前をクリックします。
ディスク エントリが展開され、パーティション名、ドライブ文字、ファイル システム、使用されている領域 (MB 単位) が表示されます。
 - パーティションを編集するには、次の手順を実行します。
 - 編集するパーティションを選択し、[Edit] をクリックします。
編集するパーティションを選択し、[Edit] をクリックします。
 - [Edit Partition] ダイアログボックスで、次を実行します。
 - [Drive Letter] ドロップダウン リストから、ドライブを選択します。
 - [Size] テキスト フィールドに、パーティション サイズを入力します。
(注) サイズは使用できるディスク容量を超えてはなりません。
 - [File system] ドロップダウン リストから、ファイル システムを選択します。
 - [OK] をクリックして変更を保存します
 - 新しいパーティションを作成するには、次の手順を実行します
 - 空き領域を選択し、[New] をクリックします。
[Create Partition] ダイアログボックスが表示されます。
 - [Create Partition] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
 - [Driver Letter] ドロップダウン リストから、ドライブを選択します。
 - [Size] フィールドで、ディスク サイズを編集します。
(注) サイズは使用できるディスク容量を超えてはなりません。
 - [File System] ドロップダウン リストから、ファイル システムを選択します。
 - [OK] をクリックします。

e) パーティションを削除するには、次の手順を実行します。

- 削除するパーティションを選択し、[Delete] をクリックします。
[OS Install] ダイアログボックスが表示されます。
- パーティションを削除する場合は [Yes] をクリックします。

(注) Red Hat Enterprise Linux では、ルートおよびスワップパーティションが必要です。パーティション作成プロセス中でサイズを指定しないと、UCS-SCUはアラートメッセージを生成して、別のパーティション設定を推奨します。Linux のパーティションについて習熟していない場合は、これを受け入れます。

パッケージの選択

パッケージの選択を設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 [Package Selection] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。
- ステップ 2 該当するチェックボックスをすべてオンにします。

ネットワーク設定

ネットワーク設定では、インストール時にオペレーティングシステムによって検出されるオンボードネットワークアダプタのネットワーク設定値を入力することができます。これらの設定は、CIMC のネットワーク設定に影響を与えません。オペレーティングシステムと CIMC に異なる IP アドレスを設定することを推奨します。UCS-SCU で検出された各ネットワークアダプタがネットワークインターフェイスカラムに一覧表示されます。使用するオペレーティングシステムによって、オペレーティングシステムをインストールした後に、インターフェイス名が異なる場合があります。

ネットワーク設定を行うには、次の手順に従ってください。

手順

- ステップ 1 [Network Settings] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。
[Network Settings] ウィンドウに、使用できるネットワークインターフェイスのリンクステータスと、対応する IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS、リンクステータス、ベンダー、タイプ、および MAC アドレスが表示されます。

ステップ 2 [Network Mapping] ウィンドウで、次を実行します。

- a) [Work Group] または [Network Domain] 領域で、次のいずれかのオプションを選択します。
 - ネットワークまたはドメインを追加する必要がない場合は、[No network] または [No domain] オプション ボタンを選択します。 [Work Group Name] フィールドにワーク グループ名を入力します。 最大文字数は 20 文字です。
 - [Join this Domain] オプション ボタンを選択し、次を実行します。
 - [Domain Name] テキスト フィールドに、ドメインの名前を入力します。 最大文字数は 20 文字です。
 - [Domain Username] に、ドメインのユーザ名を入力します。 最大文字数は 20 文字です。
 - [Domain password] に、ドメインのパスワードを入力します。 最大文字数は 20 文字です。
- b) リモート アクセス設定の [Enable Remote Access (RDP)] オプション ボタンを選択または選択解除します。
- c) ファイアウォール設定の [Disable Firewall] オプション ボタンを選択または選択解除します。
- d) [DNS Suffix/Domain] フィールドに、ドメインの DNS サフィックスを指定します。 最大文字数は 25 文字です。
- e) [DNS Suffix Search Order 1] フィールドに、DNS サフィックスの検索順序を入力します。 最大文字数は 25 文字です。
- f) [DNS Suffix Search Order 2] フィールドに、もう 1 つの DNS サフィックスの検索順序を入力します。 最大文字数は 25 文字です。
- g) [Proxy Address] フィールドに、プロキシ サーバの IP アドレスまたは名前を入力します。 最大文字数は 30 文字です。
- h) [Port] フィールドに、プロキシ サーバのポート番号を入力します。 最大文字数は 5 文字です。
- i) 次の操作を実行して、ネットワーク設定を編集します。
 - ネットワーク インターフェイスを選択し、[Edit] をクリックします。
[Network Settings] ダイアログボックスが表示されます。
 - [IP Address from DHCP server] または [Static IP Address] を選択します。 [Static IP Address] を選択した場合は、次の手順を実行します。
 - [IP Address] フィールドに、IPv4 アドレスを入力します。
 - [Subnet Mask] フィールドに、サブネットの IPv4 アドレスを入力します。
 - [Gateway] フィールドに、ゲートウェイ IPv4 アドレスを入力します。
 - [DNS] フィールドに、DNS の IPv4 アドレスを入力します。
 - [OK] をクリックします。

インストール ドライバ

UCS-SCUは、ドライバのソースからダウンロードされる使用可能なすべてのドライバを表示します。インストールしないドライバを選択解除します。RAID ボリュームにオペレーティングシステムをインストールする場合は、適切な RAID コントローラ用のドライバを選択します。

インストール ドライバを設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [Installation Drivers] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。
- ステップ 2** [Choose Drivers to Install] テーブルから、インストールするドライバを選択します。ドライバが [Choose Drivers to Install] テーブルにない場合は、[Installation Drivers] ツールバーを使用してドライバをダウンロードします。ドライバをダウンロードするには、次のいずれかのオプションを選択します
- [Cisco.com](#) からのダウンロード
 - SCU ブートメディアからのダウンロード
 - ネットワーク共有からのダウンロード
 - USB からのダウンロード
-



第 7 章

診断ツールの概要

この章の内容は、次のとおりです。

- [診断ツールについて](#), 47 ページ
- [診断ツールの使用](#), 49 ページ

診断ツールについて

Cisco サーバのハードウェア上の問題を診断するには、診断ツールを使用できます。ユーザインターフェイスはテスト実行のステータスを表示し、ハードウェアの問題を解決するためにログファイルを検査します。

診断ツールを使用して次のことが可能です。

- さまざまなサーバコンポーネントに対してテストを実行し、ハードウェアの問題を見つけたり、テスト結果を表形式で分析する。
- 使用可能なテストを閲覧することなく、クイックタスク機能を使用してすべてのテストを実行する。
- いくつかのテストを並行して実行すると、他のテストに干渉する可能性があるため、逐次テストを実行する。
- デフォルトとは異なる別の引数値を入力して、テストを設定する。
- テストスイート機能を使用して、実行するテストを選択する。
- 外部 USB フラッシュドライブに、SEL ログなどのすべてのテストログを保存する。
- サーバの現在の状態を調べ、ハードウェアの問題を表示する。

次の表で、特定の診断機能を使用すべき場合について説明します。

表 8: 診断コンポーネントと機能

診断コンポーネント	機能
クイック テスト	所定の期間内のサブシステムのステータスをすばやく確認する場合は、このテストを使用します。クイック テストでテストできるコンポーネントは、プロセッサ、キャッシュ、メモリ、ディスク、ビデオ、ネットワーク、QPI、CIMC、RAID およびチップセットです。
包括的テスト	サブシステムを詳細にテストする場合は、このテストを使用します。これらのテストは、サブシステムに負荷を加え、エラーを報告するように設計されています。実行できるテストは、プロセッサ、メモリ、QPI、ディスク、Non-Uniform Memory Access (NUMA) です。
クイック タスク	包括的テストとクイックテストの両方が統合されたテストを実行できます。クイック タスクを使用して、両方の種類のテストを実行できます。
テストスイート	クイックテストと包括的テストで使用可能なすべてのテストは、ここで使用できます。テストスイートでは、必要な数のテストを選択し（チェックボックスを使用）、これらを同時に実行できます。
テスト ログの概要	実行したすべてのテストのログ、エラーログ、分析を表示するには、テストログの概要を使用します。ログをソートするため、4つのフィルタを使用できます。
テストの要約	左側のナビゲーションのこのテーブルは、実行したテストの結果を、合格したテスト、キューに格納されているテスト、不合格だったテストの形式で表示します。

診断ツールの使用

クイックテスト

ハードウェアの問題を特定するために、これらのテストをすばやく実行できます。これらのテストは、通常 20 ～ 30 分かかり、少数のサブシステムの限定された機能をテストします。包括的なテストでは、より網羅的な診断を行います。

クイックテストを実行するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 左側のナビゲーションペインから [Diagnostic Tools] をクリックします。
- ステップ 2** [Quick Test] 折りたたみボタンをクリックし、実行可能なクイックテストの種類を表示します。
- ステップ 3** サブシステム（メモリ、ビデオ、ネットワークなど）をクリックします。
- ステップ 4** コンテンツペインで [Run Test] をクリックします。

テストが実行され、ステータスが [Tests Status] 領域に表示されます。

次の表で、クイックテストで網羅されるサブシステムについて説明します。

表 9: クイックテスト

テスト	説明
Processor Test	プロセッサ固有のテストを実行します。このテストは、使用可能なすべてのコアで演算と浮動小数点操作を実行します。また、テスト期間を指定できます。
Cache Test	CPU キャッシュを調べるためのテストを実行し、訂正可能および訂正不可能なキャッシュエラーを確認します
Memory Test	DIMM およびメモリコントローラをテストします。
Disk Test	各ディスクをブロック単位で読み込むことで、システムで使用可能なディスクをテストします。
Video Test	ビデオメモリに負荷を与えるテスト

テスト	説明
Network Test	内部ループバック テスト、レジスタ テスト、Electrically Erasable Programmable Read Only Memory (EEPROM) テスト、および割り込みテストを実行して、使用できるネットワーク インターフェイスをテストします。
QPI Test	高速バス相互接続のファブリックをテストします。
CIMC Test	IPMI インターフェイスを介して CIMC のセルフ テストを実行し、SEL の十分性を確認します。
Chipset Test	チップセットを確認するためのテストを実行し、チップセットの RAS レジスタにエラーが記録されないかどうかを確認します。
RAID Adapter Test	LSI MegaRAID 926x および 8708 コントローラと、バッテリー バックアップ ユニットの診断をチェックするためのテストを実行します。

包括的テスト

包括的テストは、何時間も実行され、クイック テストでサーバの問題を診断できない場合に実行されます。このテストは、複数のハードウェア コンポーネントをテストし、サーバの複数のコンポーネントが原因で発生する可能性のある問題を検出するように設計されています。

個々のテストはユーザ定義の条件をテストするようにカスタマイズできます。一群のテストを実行することもできます。

包括的テストを実行するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 左側のナビゲーション ペインから [Diagnostic Tools] をクリックします。
- ステップ 2 [Tests] をクリックします。
- ステップ 3 サブシステム (プロセッサ、メモリ、またはネットワークなど) をクリックします。
- ステップ 4 コンテンツ ペインで、[Run Tests] をクリックします。
テストが実行され、ステータスが [Tests Status] 領域に表示されます。

次の表で、包括的テストで網羅されるサブシステムについて説明します。

テスト	説明
Processor Stress Test	システムの CPU およびメモリに最大負荷を課します。このテストを実行する時間 (分) を設定できます。
Memory Pattern Test	メモリにさまざまなパターンを書き込んで読み込み、使用できる空きメモリをテストします。
QPI Stress Test	NUMA ノード間のトラフィックを生成し、QPI 相互接続に負荷を与えるためのテストを事項します。
Smart Disk Test	各ディスクをブロック単位で読み込むことで、システムで使用可能なディスクをテストします。
NUMA Test	NUMA のメモリ アクセス パターンに負荷を与え、エラーがないかどうかを確認するためのテストを実行します。
VDisk Stress Test	システムの仮想ディスクに負荷を与えるテストを実行します。仮想ディスクのサイズによっては、このテストは長時間実行されます。

クイックタスク

クイックタスクでは、診断ツールをただちに開始することができます。ここからすべてのテスト (クイックおよび法各) を実行して、シスコに詳細を報告し、ログをトラブルシューティングしたり、システムの問題に関する情報を提供することができます。この機能を使用するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 左側のナビゲーション ペインから [Diagnostic Tools] をクリックします。
- ステップ 2** [Quick Tasks] をクリックします。
- ステップ 3** ツールバーから [Run Quick Tests] または [Run Comprehensive Test] を選択します。ステータスは、[Test Status] ペインに表示されます。また、[Tests log summary] で詳細なテスト結果を参照できます。

テストスイート

テストスイートを使用すると、クイックテストと包括テストを一括して実行することができます。使用可能なさまざまなテストが、テストの種類、テストの説明とともに一覧表示されます。リストから実行する任意の数のテストを選択し、[Tests Status] カラムでテストの結果を参照できます。

テストスイートを実行するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ1 左側のナビゲーションペインから [Tests Suite] をクリックします
- ステップ2 必要なチェックボックスをクリックして実行するテストを選択します。
- ステップ3 [Run Tests Suite] をクリックし、テストスイートに追加したテストを実行します。ステータスは、名前、スイートID、結果、開始時刻および終了時刻とともに、[Tests Status] ペインに表示されます。また、テストログの概要を表示して、テストスイート中のテストの実行ステータスを参照できます。

テストログの概要

トラブルシューティング用にテストログを調べる場合に、テストログの概要機能を使用します。テストログの概要を表示するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ1 左側のナビゲーションペインで [Diagnostic Tools] をクリックします。
- ステップ2 左側のナビゲーションペインで [Tests Log Summary] をクリックします。
- ステップ3 フィルタドロップダウンからフィルタを選択し、[Go] をクリックします。テストのステータス、結果、開始時刻と終了時刻が表示されます。
- ステップ4 詳細については、特定のログエントリをクリックします（たとえば、[memory test] をクリックします）。
- ステップ5 ログ、エラーログ（テストに失敗した場合）、特定のテストの分析がコンテンツペインに表示されます。

テストの要約

左のナビゲーション領域の [Test Summary] テーブルには、合格したテスト、キュー内のテスト、および不合格だったテストの要約が表示されます



第 8 章

ブート順と RAID レベルの設定

この章の内容は、次のとおりです。

- [ブート順の設定, 55 ページ](#)
- [RAID 設定, 56 ページ](#)

ブート順の設定

UCS-SCU は、サーバのすべてのブート可能デバイスのリストを表示します。

サーバの BIOS ブート順を設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 左側のナビゲーション ペインで、[Server Configuration] をクリックし、[Boot order Configuration] をクリックします。[Device Types and Boot Order] カラム間で矢印キーを使用して、ブート順の設定に参加させるデバイスを選択できます。
- ステップ 2** [Device Types] カラムを強調表示し ([HDD]、[CD/DVD]、[Internal EFI Shell]、[Network Devices]、または [FDD] から選択します)、左から右の矢印キーをクリックして希望のサーバブート順を配置して、[Apply] をクリックします。
- ステップ 3** [Apply] をクリックします。
ブート順は、サーバに保存されます。
- ステップ 4** [Reset] をクリックすると、ブート順序をリセットします。
(注) システムで、各コンポーネントの下に複数のブート デバイスがある場合 (たとえば、システムの同じコントローラや CD ドライブの下に複数のブート可能なハードディスクがある場合)、SCU はこの情報を表示しません。BIOS を開始し、これらのサブコンポーネントの順序を手動で設定する必要があります。

RAID 設定

RAID 設定の概要

RAID (Redundant Array of Independent Disks) は、システム内に存在するかシステムに接続されている物理ディスクにデータを格納する方法を管理するための技術です。 オンボードまたは PCIe でサポートされる RAID コントローラ カードを設定するために、UCS-SCU の RAID 設定機能を使用できます。

システムに複数の RAID コントローラがある場合、UCS-SCU は、[RAID Configuration] ページに、すべての使用可能な RAID カードと、物理および論理ディスクのリストを表示します。 次の RAID 設定オプションを使用できます。

- 冗長性を伴う自動セットアップ
- 冗長性を伴わない自動セットアップ
- 単一の RAID レベル : RAID 0、RAID 1、RAID 5、および RAID 6
- ネストされた RAID レベル : RAID 10、RAID 50、および RAID 60

RAID 設定ページのコンポーネント

物理ディスク テーブルについて

[RAID Configuration] ページの [Physical Disks] テーブルには、次の内容が一覧表示されます。

- [ID] : 物理ディスクの識別番号。
- [Slot] : 物理ディスクが属するスロット。
- [State] : ディスクのステータス。 さまざまなディスク状態の詳細については、次の表を参照してください。

表 10: ディスク ステータス状態

ステータス状態	説明
Online	ドライブが別のアレイですでに使用されています。
Global Hotspare	障害が発生したドライブが、ホットスペアドライブの容量以下である場合に、ドライブ障害があるシステム内のアレイを修復するために使用されます。
Unconfigured Good	ドライブは未使用または使用可能です。
Ready	ドライブはオンラインで、正しく動作しています。

ステータス状態	説明
Offline	ドライブはオフラインまたは存在しません。ドライブがオンラインになるまで、ドライブに対する操作は実行できません。
Unconfigured Bad	ドライブが動作しておらず、交換する必要があります。 ステータスが「Unconfigured bad」のディスクは、RAID 設定で使用できません。
Foreign	ドライブが、他のコントローラで作成されたアレイか、あるエンクロージャ内で作成され、同じコントローラの別のエンクロージャに移動されたアレイに属しています。設定を削除した後、新しいアレイの作成に使用できます

- [Size] : 物理ディスクのサイズ
- [Device Speed] : コントローラのディスク アクセス速度。
- [Link Speed] : コントローラでリンク速度
- [Logical Disk] : 物理ディスクが属する論理ディスク。

論理ディスク テーブルについて

[RAID Configuration] ページの論理ディスク ペインには、論理ディスクに関する情報が表示されます。

次の表では、RAID アレイの属性について説明します。

表 11 : RAID アレイの属性

オプション	説明
ID	論理ディスクの一意の ID。
Size	論理ドライブのサイズ。最大値は、選択した RAID レベルと、関係する物理ディスクのサイズによって異なります。
Primary RAID level	RAID 0 (データ ストライピング) 、1 (ディスク ミラーリング) 、5 (パリティをストライプしたデータ ストライピング) 、6 (分散パリティとディスク ストライピング) 。
Secondary RAID level	ネストされた RAID レベルのみに適用されます。

オプション	説明
Stripe size	すべてのディスクのデータ ストライプのサイズ。各物理ディスクのデータ ストライプはこれよりも小さくなります。すべてのストライプの合計がストライプのサイズになります。
Read policy	No Read Ahead、Read Ahead、Adaptive。Read Ahead では、追加で連続するストライプを読み込みます。Adaptive では、シーケンシャルな読み込みに対して Read Ahead が有効になり、ランダムな読み込みに対して無効になります。
Write policy	Write Through または Write Back。Write Through では、データがディスクに書き込まれるときに、書き込み操作の I/O 完了が通知されます。Write Back では、データがキャッシュに転送される時に、I/O 完了が通知されます。
Cache policy	Direct I/O または Cached I/O。確認なしの読み書き操作を行う場合は Direct I/O を選択します。すべての書き込み操作をキャッシュし、読み込み操作について最初にキャッシュを確認するには、Cached I/O を選択します

RAID アレイの設定

未設定の正常なディスクのみを RAID 設定に使用できます。すでに RAID の一部になっているディスクは RAID 設定に使用できません。

カスタムまたは複数の RAID アレイを作成するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** 左側のナビゲーションペインで、[Server Configuration] をクリックし、[RAID configuration] をクリックします。
[RAID Configuration] ページに、物理ディスクおよび論理ディスクのリストが表示されます。
- ステップ 2** ページの右上にある [Configure RAID] アイコンをクリックします
[RAID Configuration] ページが表示されます。
- ステップ 3** [RAID level] ドロップダウン リストから、次の RAID レベルの 1 つを選択します。
- Automatic Setup without Redundancy
 - Automatic Setup with Redundancy

(注) 冗長性の有無に関係なく、自動セットアップは、すべての既存の RAID アレイを上書きします。

- Single-level RAID Configuration
- Nested RAID Configuration

ステップ 4 [Create Array] をクリックします。

(注) [Create Array] ボタンは、最低限必要な数のドライブグループが作成されているときにだけ有効です。

経過表示バーが表示され、RAID 設定の完了を示す [RAID Configuration] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 5 [OK] をクリックします。

[RAID Configuration] ページが表示されます。次の内容を表示できます。

- ドライブグループ情報は、[Logical Disks] テーブルに表示されます。
- 物理ディスク情報は、[Physical Disks] テーブルに表示されます。
- ドライブグループに属する物理ディスクのステータスが Online に変わり、バックアップ物理ディスクのステータスが Hot spare に変わります。

冗長性を伴わない自動セットアップ

冗長性を伴わない自動セットアップでは、1 つ以上のハードドライブが必要です。UCS-SCU はこのオプションで RAID 0 を作成します。

次の表に、冗長性を伴わない自動セットアップで表示されるデフォルト値を示します

表 12: 冗長性を伴わない自動セットアップのデフォルト値

パラメータ	値
Controller	MegaRAID SAS <ファミリ>
RAID Level	0
Stripe Size	64
Read Policy	No Read Ahead
Write Policy	Write Back
Cache Policy	Direct IO
Size (MB)	物理ディスクのサイズによって異なります



(注) 共通パラメータは、合計サイズを除き、コントローラのデフォルト値です。

冗長性を伴う自動セットアップ

冗長性を伴う自動セットアップは、デフォルトの RAID 設定のオプションです。この設定では、少なくとも 2 台の物理ドライブが使用可能である必要があります。2 台の物理ディスクが使用できない場合、デフォルトの RAID 設定は、冗長性を伴わない自動セットアップになります。

次の表に、冗長性を伴う自動セットアップで表示されるデフォルト値を示します

表 13: 冗長性を伴う自動セットアップのデフォルト値

パラメータ	値
Controller	MegaRAID SAS <ファミリ>
RAID Level	1
Stripe Size	64
Read Policy	No Read Ahead
Write Policy	Write Back
Cache Policy	Direct IO
Size (MB)	物理ディスクのサイズによって異なります



(注) 共通パラメータは、合計サイズを除き、コントローラのデフォルト値です。

Single-Level RAID の設定

Single-Level RAID を設定するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [RAID] ドロップダウン リストから、RAID レベルを選択します (0、1、5、6 のいずれか)。

[Drive Groups] ペインでは、物理ディスクおよびドライブ グループのリストが表示されます。物理ディスクの詳細を表示するには、ツールチップが表示されるまで、物理ディスクの上にカーソルを合わせます

- ステップ 2** [Physical Disks] リストから、[Drive Groups] リストに含める物理ディスクを選択します。次の表に、RAID レベルごとに必要な物理ディスクの最小数を示します。

表 14: 必要な物理ドライブの最小数

RAID レベル	必要な物理ディスクの数
RAID 0	1
RAID 1	2
RAID 5	3
RAID 6	4

- ステップ 3** [Create Drive Group] をクリックします。
 (注) [Create Drive Group] ボタンは、RAID レベルに必要な最低限の数の物理ディスクを選択するまで無効なままになります。
 選択した物理ディスクが [Drive Groups] リストに追加されます。
 (注) [Delete Drive Group] ボタンは、ドライブ グループが作成されるまで無効なままになります。
- ステップ 4** [Physical Disks] リストから、ホットスペア ドライブまたはスタンバイ ドライブとして使用するドライブを選択します。
- ステップ 5** [Stripe Size] リストから、RAID レベルのストライプ サイズを選択します。
- ステップ 6** [Read Policy] リストから、RAID レベルの読み取りポリシーを選択します。
- ステップ 7** [Write Policy] リストから、RAID レベルの書き込みポリシーを選択します。
- ステップ 8** [Cache Policy] リストから、RAID レベルのキャッシュ ポリシーを選択します。
- ステップ 9** [Size (MB)] テキスト フィールドに、MB 単位で論理ディスクのサイズを入力します。

ネストされた RAID の設定

ネストされた RAID レベルには、プライマリとセカンダリの RAID レベルがあります。ネストされた RAID レベルには 2 つ以上のドライブ グループを作成する必要があり、各ドライブ グループには同じ数の物理ディスクが必要です

ネストされた RAID レベルを設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [RAID] ドロップダウン リストから、RAID レベルを選択します (10、50、60 のいずれか)。
[Drive Groups] ペインでは、物理ディスクおよびドライブ グループのリストが表示されます。物理ディスクの詳細を表示するには、ツールチップが表示されるまで、物理ディスクの上にカーソルを合わせます
- ステップ 2** [Physical Disks] リストから、[Drive Groups] リストに含める物理ディスクを選択します。
次の表に、RAID レベルごとに必要な物理ディスクおよびデータ グループの最小数を示します。

表 15: 必要な物理ドライブの最小数

RAID レベル	必要な物理ディスクの最小数	必要なデータ グループの最小数
RAID 10	4	2
RAID 50	6	2
RAID 60	8	2

- ステップ 3** [Create Drive Group] をクリックします。
(注) [Create Drive Group] ボタンは、RAID レベルに必要な最低限の数の物理ディスクを選択するまで無効なままになります。
選択した物理ディスクが [Drive Groups] リストに追加されます。
(注) [Delete Drive Group] ボタンは、ドライブ グループが作成されるまで無効なままになります。
- ステップ 4** [Stripe Size] リストから、RAID レベルのストライプ サイズを選択します。
- ステップ 5** [Read Policy] リストから、RAID レベルの読み取りポリシーを選択します。
- ステップ 6** [Write Policy] リストから、RAID レベルの書き込みポリシーを選択します。
- ステップ 7** [Cache Policy] リストから、RAID レベルのキャッシュ ポリシーを選択します。
- ステップ 8** [Size (MB)] テキスト フィールドに、MB 単位で論理ディスクのサイズを入力します。

RAID アレイのクリア

すべての仮想ディスクの削除

すべてのディスクを削除するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** 左側のナビゲーション ペインで、[Server Configuration] をクリックし、[RAID configuration] をクリックします。
[RAID Configuration] ページに、物理ディスクおよび論理ディスクのリストが表示されます。
- ステップ 2** ページの右上にある [Clear Configuration] アイコンをクリックします。
[RAID Configuration] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3** 操作を確定するには、[Yes] をクリックします。
論理ディスクの下のすべての仮想ディスクがクリアされ、ハードディスクの状態が Unconfigured Good に変わります。
-

複数または単一の仮想ディスクの削除

単一の RAID レベルおよびネストされた RAID レベルでは、未設定の正常な物理ディスクの数が選択された RAID レベルに必要な最小数よりも少ない場合、[RAID Configuration] ダイアログボックスが表示され、物理ディスクを解放するために論理ディスクを削除する必要があることが示されます。

論理ディスクを削除するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** 表示される [RAID Configuration] ダイアログボックスで、[Yes] をクリックします。
[Delete Logical Disks] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 2** 削除する論理ディスクを選択します。論理ディスクに属する物理ディスクがダイアログボックスの下部に表示されます。
(注) 論理ディスクを削除すると、ディスクに保存されているすべての情報にアクセスできなくなります。
- ステップ 3** [Delete] をクリックします。
-

UCS-SCU でサポートされる RAID コントローラ

LSI 内蔵の MegaRAID

サポートされるプラットフォーム

LSI 内蔵の MegaRAID は、次のプラットフォームでサポートされます。

- UCS-C220 M3
- UCS-C240 M3 (16 台の HDD 構成)

サポートされる RAID オプション

LSI 内蔵の MegaRAID コントローラを使用している場合、次の RAID オプションを使用できます。

- 冗長性を伴わない自動セットアップ
- RAID 0
- RAID 1
- RAID 5 : このレベルを有効にするには、LSI TSOC Raid キーなどのキーをインストールする必要があります。
- RAID 10

次の表に、LSI 内蔵の MegaRAID の冗長性を伴わない自動セットアップで表示されるデフォルト値を示します

表 16 : 冗長性を伴わない自動セットアップのデフォルト値

パラメータ	値
Controller	LSI Embedded MegaRAID
RAID Level	0
Stripe Size	64
Read Policy	Read Ahead
Write Policy	Write Through
Cache Policy	Direct IO
Size (MB)	物理ディスクのサイズによって異なります

RAID レベルの設定方法については、[RAID アレイの設定](#)、(58 ページ) を参照してください。

LSI MegaRAID コントローラのイネーブル化



(注) LSI 内蔵 MegaRAID コントローラのサポートは、BIOS のデフォルトでディセーブルになっています。

BIOS でコントローラをイネーブルにするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 サーバをリブートし、BIOS Setup ユーティリティの開始を促すメッセージが表示されたときに F2 キーを押します。
- ステップ 2 [Advanced] タブを選択し、[South Bridge] を選択します。
- ステップ 3 [Onboard SCU Storage Support] を [Enable] に設定します。
- ステップ 4 F10 を押して変更内容を保存し、ユーティリティを終了します。



第 9 章

ログの表示

この章の内容は、次のとおりです。

- [システム ログの表示, 67 ページ](#)
- [システム イベント ログの表示, 68 ページ](#)

システム ログの表示

システム ログを表示することで、エラーが発生したかどうかを確認し、必要な修正処理を実施できます。

システム ログ ファイルには、オペレーティング システム コンポーネントによって記録されたイベントが表示されます。これらのイベントは、多くの場合、オペレーティング システム自体によって事前に決定されています。システム ログ ファイルは、デバイスの変更、デバイス ドライバ、システム変更、イベント、操作などに関する情報を表示します。

システム ログを表示するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 左側のナビゲーション ペインで [Logs] をクリックします。
 - ステップ 2** [System Logs] をクリックします。
 - ステップ 3** フィルタ ドロップダウン リストからフィルタを選択します。
 - ステップ 4** [Go] をクリックします。
システム ログが表示されます。
-

システム イベント ログの表示

システム イベント ログを表示することで、エラーが発生したかどうかを確認し、必要な修正処理を実施できます。

システム イベント ログ ファイルには、サーバによって記録されたイベントが表示されます。

システム イベント ログを表示するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1 左側のナビゲーションペインで [Logs] をクリックします。
 - ステップ 2 [System Event Log] をクリックします。
 - ステップ 3 ドロップダウンリストから、[Description] または [Severity] フィルタを選択します。
 - [Description] フィルタを選択して [Go] をクリックすると、説明と重大度を含むすべてのシステム イベント ログが表示されます。
 - [Severity] フィルタを選択して [Go] をクリックすると、指定した重大度タイプのログのリストが表示されます。
 - ステップ 4 適用したフィルタをクリアするには、[Clear Filter] をクリックします。
-



第 10 章

UCS-SCU の問題のトラブルシューティング

この章では、UCS-SCU アプリケーションの使用時に利用可能なさまざまなトラブルシューティング オプションを示します。

- [UCS-SCU の問題のトラブルシューティング, 69 ページ](#)

UCS-SCU の問題のトラブルシューティング

- OS のインストールプロセスが中断され、サーバがリポートする。

ウォッチドッグ タイマーの値を決定します。ウォッチドッグ タイマーは、C シリーズ サーバの BIOS の新機能です。この機能がイネーブルで、値が OS のインストールに必要な時間よりも短い期間に設定されていると、OS のインストールプロセスは中断されます。このウォッチドッグタイマー機能は、指定された期間後に自動的にサーバをリポートするか、電源をオフにします。OS のインストールプロセスを開始する前に、ウォッチドッグタイマー機能をディセーブルにします。

- 仮想 USB をマッピングするか、物理的な USB を接続した後でも、UCS-SCU で次のメッセージが表示される。

No USB Disk on Key detected

- vmedia を通じてマッピングした USB デバイスについては、vmedia GUI から [USB reset] の選択を試みます ([virtual media session] -> [details] -> [USB reset])
- 物理的な USB デバイスについては、ベンダーおよび製品情報を確認するか、異なるデバイスを試みます。

- Windows OS をインストールした後、KVM マウスが動作せず、Windows デバイスマネージャで、USB ヒューマンインターフェイス デバイスに黄色の「!」が表示される

CIMC のバージョンを確認します。サーバに最新版の CIMC がインストールされていることを確認します。

- Windows 2008 のインストールが失敗し、次のメッセージが表示される。

Selected disk has MBR partition table. On EFI systems, Windows can only be installed to GPT disks.

仮想ドライブの EFI CD-ROM デバイスが、Windows 2008 イメージのブートに使用されました。BIOS の CD-ROM 順から CD-ROM デバイスを使用します。

- UCS-SCU を通じて Windows オペレーティング システムをインストールした後、Windows デバイスマネージャで一部のデバイスに黄色の「!」が表示される。

この問題は、次のいずれかの理由により発生する可能性があります。

- デバイスがシスコのサポート マトリクスにない。
- SCU GUI で一部のデバイス ドライバを選択していない。

- Windows セットアップが BSOD 0x7B (ブート デバイスがアクセス不可) で失敗する。
SCU GUI でブート コントローラのデバイス ドライバを選択していない。

- CIMC の変更は、UCS-SCU ですぐに反映されません。

サーバが SCU によって起動されている場合、CIMC を使用して仮想ディスクに対して行った変更は、SCU のユーザ インターフェイスですぐに表示されない場合があります。CIMC と同期するように、サーバをリブートします。

- 電源投入時セルフ テスト (POST) 中に、LSI 内蔵 MegaRAID と LSI 2008 コントローラの両方が検出されるが、LSI 2008 コントローラのみが UCS-SCU に表示される。

LSI 内蔵 MegaRAID と LSI 2008 は、UCS-SCU で同時にサポートされません。両方が存在する場合、LSI 2008 のみが検出されます。LSI 内蔵 MegaRAID を検出するには、コントローラを取り外します。



索引

C

Cisco Flexible Flash [6](#)
概要 [6](#)

K

KVM コンソール [7](#)
概要 [7](#)

O

OS のインストール [27, 28](#)
概要 [27](#)
高速インストール [28](#)

R

RAID [64](#)
サポートされるオプション [64](#)
RAID アレイ [58](#)
設定 [58](#)
RAID 設定 [56](#)
概要 [56](#)

S

SCU ISO のダウンロード [5](#)
cisco.com [5](#)

U

UCS SCU [1, 2, 4, 64](#)
概要 [1](#)

UCS SCU (続き)

サポートされているプラットフォーム [2, 64](#)
サポートされる LOM および LSI デバイス [2](#)
サポートされる OS [2](#)
ハードウェア要件 [4](#)

UCS SCU GUI [12](#)

概要 [12](#)

UCS SCU の起動 [6, 8](#)

Flexible Flash [6](#)

KVM [8](#)

あ

アプリケーションの起動 [9](#)
物理メディア [9](#)

い

イネーブル [65](#)
LSI MegaRAID コントローラ [65](#)
イメージの更新 [19, 20](#)
cisco.com [19](#)
Flexible Flash [19](#)
ネットワークから [20](#)
インストール [35, 41, 46](#)
ドライバ [35, 41, 46](#)

か

開始 [8](#)
仮想 KVM コンソール [8](#)
概要 [1, 7, 11, 12, 17, 23, 25, 27, 47, 56, 57](#)
KVM コンソール [7](#)
OS のインストール [27](#)
RAID 設定 [56](#)

概要 (続き)

UCS-SCU 1

UCS-SCU GUI 12

サーバインベントリ 23

サーバヘルス 25

診断ツール 47

物理ディスク テーブル 56

ライセンス契約 11

ログの保存 17

論理ディスク テーブル 57

カスタム インストール 31, 36, 41

Linux OS 36

SUSE Linux OS 41

Windows 31

仮想ディスク 62

削除 62

き

基本設定 42

SUSE Linux 42

基本設定の設定 37

く

クイック テスト 49

サブシステム 49

さ

サーバインベントリ 23

概要 23

サブシステムの詳細 23

サーバスナップショット 17

取得 17

使用 17

サーバの再起動 21

サーバヘルス 25

概要 25

削除 62, 63

仮想ディスク 62

単一または複数の仮想ディスク 63

し

実行 16

サーバヘルス チェック 16

自動セットアップ 59, 60

冗長性 60

冗長性を伴わない 59

デフォルト値 59, 60

終了 9

UCS SCU 9

使用 17

サーバスナップショット 17

診断コンポーネント 47

機能 47

診断ツール 47, 49, 50, 51, 52

概要 47

クイック タスク 51

クイック テスト 49

テストログの概要 52

包括的テスト 50

せ

設定 15, 32, 33, 37, 39, 43, 44, 55, 58, 60, 61

RAID アレイ 58

Single-Level RAID 60

インストールパーティションの設定 33, 37, 43

ネストされた RAID 61

ネットワーク 15

パーソナライズ設定 32

パッケージの選択 39, 44

ブート順 55

て

テストスイート 52

概要 52

テストの要約 53

概要 53

と

ドライバ 35, 41, 46

インストール 35, 41, 46

トラブルシューティング [69](#)
UCS-SCU [69](#)

ね

ネストされた RAID レベル [61](#)
設定 [61](#)
ネットワーク [15](#)
設定 [15](#)
ネットワーク設定 [34, 39, 44](#)
概要 [34, 39, 44](#)
設定 [34, 39, 44](#)

ひ

表示 [24, 25, 67, 68](#)
サーバインベントリ [24](#)
サーバヘルス [25](#)
システム イベント ログ [68](#)
システム ログ [67](#)

ふ

物理ディスク テーブル [56](#)
概要 [56](#)
ディスク ステータス状態 [56](#)

ほ

包括的テスト [50](#)
サブシステム [50](#)

ま

マニュアルの構成 [ix](#)

ろ

ログの保存 [17](#)
概要 [17](#)
論理ディスク テーブル [57](#)
RAID アレイの属性 [57](#)
概要 [57](#)

